令和6年度「東京都環境影響評価審議会」第二部会（第3回）

日時：令和6年9月26日（木）午前10時～

形式：対面及びオンラインの併用方式

— 会 議 次 第 —

- 1 環境影響評価書案に係る質疑及び審議
GLP昭島プロジェクト【3回目】

【審議資料】

資料1 「GLP昭島プロジェクト」

資料1-1 「GLP昭島プロジェクト」環境影響評価書案 第2回部会審議質疑応答

資料1-2 「GLP昭島プロジェクト」に係る都民の意見を聴く会における公述意見の概要

<出席者>

会長 柳委員
第二部会長 宮越委員
安立委員
羽染委員
廣江委員
水本委員
宗方委員
保高委員
渡邊委員

(9名)

長谷川政策調整担当部長
藤間アセスメント担当課長
石井アセスメント担当課長

「GLP昭島プロジェクト」環境影響評価書案 第2回部会審議質疑応答

項目	番号	指摘、質問事項等	事業者の説明等	取扱い
大気汚染	1	<p>交通量について、一般的な方法で予測しているが、住民は、大きな幹線道路の交通量が増えると、他の車が住宅街に入ってくるのではないかと心配している。</p> <p>もちろんアセスではそういった細い道等、間接的に増える道路までは一般的に調査しないと思うが、かなり多くの方が気にしているので、事後調査等のとき、住民の方が心配しているような住宅街道路についても調査するとか、そういう考えはあるか。</p>	<p>一つ一つの住宅道路についてまでの調査をすることは難しいと考えている。ただ、非常にたくさんの御意見をいただいているので、我々がまずそこに入らないように、テナントを含めて協議会を持ってやっていくことを、近隣の皆様にもお伝えしている。我々の予測と起き得る影響が実際どうなって、どういう課題が出てくるかは運用後でないと分からないところもあるので、そういった面については、運用開始後に話し合いをしながら改善する協議会をつくっていくことを、昭島市も含めて相談している。</p>	8/22 部会にて回答
		<p>住民は、事業に関する直接的な車が、ふだん使っている道路に来ることだけではなくて、渋滞が起ころうから、関係ない、今まで住宅街に行かなかったような車が渋滞を避けるために入ってくるのではないかを気にしているコメントが、多数あったように感じる。</p> <p>そのため、自分たちは住宅街に行かない、という話だけではなく、これは間接的な影響なので、直接的な責任ということではないかもしれないが、やはり1地点でも2地点でもいいので、そういうところで事後調査をするというのはいかがか。</p>	<p>実際にどの部分の道路が増えたと感じるかが分かりづらいところもあるので、事後調査でやるのが正しいのか、協議会の中で意見が出たところに対しての対策を考えるのかといったところで、そこはまた別の観点かと思っているので、何かしらの対応は考えていきたい。</p> <p>我々の車が増えるので、負荷はどうしても出てくるが、負荷の増大が集中しないような対策を施設運営側では検討しており、それが最終的に一般の車が細街路に入っていくようなことにつながっていくのではないかと思い、現時点ではそういう対策を考えている。</p> <p>運用開始後は、事後調査の中でというよりは、行政を含めての協議会で話し合いをする中で、どの部分がどうなっているかを把握した上で、対策については考えていきたい。</p>	

項目	番号	指摘、質問事項等	事業者の説明等	取扱い
大気汚染	2	<p>住民は、大気汚染の濃度が非常に増大するのではないかと思っ ている方がたくさんいるようだ。少 し住民の方の誤解もあるかもしれ ないが、例えば、見解書の57ペー ジの「二酸化窒素の濃度が2.3倍 になってしまうのではないか。」</p> <p>これは見解書で丁寧に説明して いて、読めば分かると思うが、住 民の方が読んで納得するかが心配な ところである。</p> <p>多分、現在の値は平均値、年平均 を使っていて、将来の値は最大値、 最大の日を使っていて、それで比 べているので、フェアな比較にな っていないというので、住民の方 が誤解したと思う。</p> <p>誤解を解くため、例えば、98%値 が年の最大に近い等、そういうこ とを評価書案などに書いたり、あ るいは、表の米印のところで、「低 いほうから数えて98%」ではなく、 もう少し踏み込んで、年間で一番 高濃度になる値に近いなど、なる べく平易な言葉で少し補足して書 くという方法はいかがか。</p>	<p>評価書に向けて、ご助言の内容を 踏まえて、表現等については分か りやすい、納得しやすい文章にな るように、できる範囲で見直して いきたいと思う。</p>	8/22 部会に て回答
		<p>一般的に評価書案では交通量や 大気汚染についても、現状の調査 と将来の予測を別々に書くため、 これで誤解が生まれているような 気もする。将来予測のところにも う一度、現状と比べると何倍とか、 そういう書き方の工夫も今回につ いてはあってもいいと思う。</p>	<p>検討していきたい。</p>	

項目	番号	指摘 質問事項等	事業者の説明等	取扱い
大気汚染	3	<p>見解書の 58 ページの下段にあるように、住民の方々は環境保全に対する措置がきちんに行われるのかを心配しているように読める。これに対して、ルールを定めることは言っているが、住民はさらに踏み込んで、ルール違反したらペナルティを与えるなど、きちんと実行するような方策を考えているかを気にしているように思う。</p> <p>「こういうのを考えて徹底させます」だけだと納得感は得られないような気がするので、より具体的に、どのように周知徹底させるのかを考えているのか。</p>	<p>我々の他施設では、各施設に色々なテナントが入り、その代表者と私どもの会社と、管理を実際に担当していくメンバーと、定期的に打合せの会を持ち、オープンなコミュニケーションを取って話し合いをして、ルール徹底を各企業に守っていただくようお願いをしていく。企業から我々に対して「もっとこういうふうにしてほしくないか」という意見も出てくる。そういったことを繰り返していくことで、周知徹底を実行しており、この施設でも実施する。</p>	8/22 部会にて回答
	4	<p>今まで書いてあること以外にも、何か環境保全上の措置についてさらに追加してこういうことをやるということは考えているのか。</p>	<p>例えば安全面をより具体的に守っていく上で、全ての施設ではないが、周辺の道路のヒヤリハットマップを独自でつくって、テナントと共有、更新をしていくことで、ドライバーに対してどこが気をつけるべきところなのかを伝え、より安全な状況を守っていく取組をスタートしており、今回の施設においても取り入れる検討をしている。</p>	8/22 部会にて回答
騒音・振動	1	<p>工事の造成と建設について、8.2-37、38 ページに音源分布が載っているが、造成は北側よりも少し後ろに下がったところに機械が並ぶことになっているが、周辺への影響を考えると、造成であればもう少し前に行くこともあるのではないかと思うのだが、造成のときの配置が本当にこんなのか、これはどういう根拠でこうなっているのかを伺いたい。</p>	<p>暫定で施工計画を立て、稼働するだろう機械の台数等を確認し、どの時点でピークになるのかを押さえ、そのときにどこを集中的に工事しているのかを考えたときに、このような機械配置になってくる。</p> <p>東と西の敷地、特に新設道路の位置に機械が集中して置いている状態かと思うが、造成の期間の中でもピークとなる時期が8か月目に当たると想定している。そのときには、道路の整備を集中的にしている時期で、併せて、その時期にどこの建物等を造っているのかを考えると、東側敷地の東寄りの場所、データセンターが集中している場所、もしくは、同じ敷地側の南側の物流施設L-1、西側の敷地の南側の物流施設L-2の辺で集中的に工事がされているという想定である。</p>	8/22 部会にて回答

項目	番号	指摘 質問事項等	事業者の説明等	取扱い
騒音・振動	2	<p>完成後の施設については、例えば 51 ページで、昼と夜の基準を満足しているという評価結果を載せているが、住民はやはり施設が建ったことによる影響も知りたいと思う。そうすると、この結果というものが、今の一般環境から比べて十分努力した結果であるという説明があったほうが良いと思うのだが、その観点から何か説明できることはあるか。</p>	<p>影響の程度を見ていくということであるならば、基準を守るだけではなくて、現状との比較もしておいたほうが良いのではないかということはおっしゃるとおりだと思いますので、評価書の中で見直せるところは見直していきたい。</p>	8/22 部会にて回答
	3	<p>工事用車両あるいは、関係車両が走ったことによる予測結果が、時間帯別のほうは本編に載せてあるが、時刻別の、時系列的なデータが一切省かれているのだが、その理由を教えてください。</p> <p>本編は昼間の時間帯や夜間の時間帯の時間帯で平均、あるいは、代表的な値と環境基準を比べるということで、いわゆる評価時間帯の値が載っているのは分かるが、例えば調査結果であっても、時刻別の値が資料編に載っている。ところが、関連車両、工事用車両の予測結果の振動は載っているが、騒音が載っていない。</p>	<p>騒音に関しては昼の区分、夜間の区分ということで整理しているので、予測結果に関しても、時間区分として集約させた形で整理している。振動に関しては時間値として掲載しているが、騒音に関しては時間区分で整理しているので、資料編には資料としては掲載していなかった。</p> <p>騒音・振動として同列として見る限りでは、掲載しておいたほうが良いということだと思うので、評価書の段階で新たな追加資料になってしまうが、掲載していくことは可能か思う。</p>	8/22 部会にて回答
	4	<p>65 ページと 71 ページに、工事用車両や関係車両が走ったときの比較として、基礎交通量のときの予測結果が載っているが、この結果が 11 ページの昼間の調査結果と全く同じになっている理由を教えてください。</p> <p>測定結果、つまり、現況を調べた調査の結果と予測の結果が基礎交通量の予測の結果と現況結果が全く同じ数字になるというのが、理解できない。</p>	<p>基礎交通量からの計算値を 65 ページなどの予測結果のところに掲載している。騒音・振動の現地調査の際に交通量を併せて測定し、その結果と同じ台数で数値計算したときの値と、騒音・振動の現地測定結果と、数値上の差異が出てくるので、そこを解消するために補正をしている。要は、予測した数値計算、解析した結果を現地調査に補正するような補正をかけて、その補正值をもって、工事中の交通量、もしくは、施設関連車両の交通量の結果を算出している。また、この地域において車両が大きく伸びていくような形は見て取れなかったため、安全側で見て現地調査の結果を基礎交通量として捉え、基礎交通量の数字が、基本的には測定をした結果とほぼ同じ数字になっている。</p>	8/22 部会にて回答

項目	番号	指摘 質問事項等	事業者の説明等	取扱い
騒音・振動	4 (続き)	<p>今言われた「補正をかけている」という説明は、どこかにお書きになっているか。</p> <p>予測は、時間帯別の交通量を予測式に入れたとしても、実測値と合わないということは、「音響学会式」が当然認めているところである。±2dBの範囲内に収まる精度はちゃんと担保されており、あとは交通量の変化によってどういふ変化が起きるかを予測するところなので、説明なくやられると、単に現況調査結果を引用しただけではないかという、明らかな、誤解ではなくて疑念を持ってしまうと理解していただきたい。</p> <p>そういう説明を加えた上で、最後の、交通量によって3dB上がるとか、そういうことを論じないと、これこそ大きな誤解を招く書き方だと言わざるを得ないので、これは完全に書き直しをお願いする。</p>	<p>本来、予測手順という形でフロー図等を入れているのだが、そこにそういった記載をしていなかったのが誤解を生む内容になっているかと思う。例えば8.2-43ページのところで、予測手順としてフローを入れているが、こちらで補正等が、作業手順として当然加えるといった修正をかけていきたいと思う。</p> <p>記載内容として不備、書き込みが足りないということについては真摯に反省させていただき、評価書に向けて修正をさせていただきたい。</p>	
騒音・振動 生物・生態系 共通	1	<p>コメントだが、猛禽類について、建設工事の音に慣らすといった話があったと思うが、今ここで建設工事騒音を予測しているのは地上1.2mである。猛禽類が地上1.2mを飛ぶわけではないので、もっと上を飛んでいる。そうすると、音源から丸見えのところを飛んでいるので、10dB以上は大きな騒音にさらされていると私は理解している。</p> <p>だが、それがここに書かれていないで、慣らす騒音がどれくらいなのか、それも誤解されると思う。これは私見であるが、そのように言うのであれば、普通は予測はしないが、高さ方向等きちんと予測したものを示した上で、それに慣らさせるといった説明をされたほうが良いのではないか。</p>	参考にさせていただきたい。	8/22 部会にて回答

項目	番号	指摘、質問事項等	事業者の説明等	取扱い
土壌汚染	1	<p>土対法及び環境確保条例に従って実施されると理解した。土地の履歴調査で一部有害物質の取扱いが確認されて、計画地の東側敷地で農薬希釈作業付近と給油施設付近、西側敷地で昭和20年頃の整備工場等の敷地とされる区域の範囲に絞り込めているとある。</p> <p>東京都の担当部署と相談をした上で、これから現地調査の計画を立案されると思うが、土地の履歴調査の結果について、年代別の航空写真や土地履歴図があると思うので、情報をいただけないか。</p>	<p>評価書案資料編の中2.3-1ページの土壌汚染の項目で、こちらで調べている地歴の調査結果として、表と文書として整理し、地図として白図または航空写真等を掲載しているので、こちらをご参考いただきたい。</p>	8/22 部会にて回答
	2	<p>地歴調査の結果、選定した調査対象物質を教えて欲しい。</p>	<p>評価書案の中の8.3-5ページに、地歴調査の結果を踏まえて、汚染の可能性があると判断した地点もしくは範囲を、図面に表現している。</p> <p>敷地が大きく2つあるが、東側の敷地、白丸の地点にはゴルフ場のメンテナンス車等で使用する車の給油施設があるので、こちらの地点を1つ選定。黒丸の地点は、農薬の取扱いを主にやっていた場所ということで、2か所選定をしている。</p> <p>また、西側の敷地の南側、グレーで塗っている箇所は、地歴の調査から昭和20年頃に整備工場として敷地の範囲が含まれていたため、対象範囲として選定している。</p> <p>対象物質は、東側の敷地の白丸で塗っている給油施設は、対象をベンゼン。黒丸に関しては、農薬の使用履歴等からチウラムという物質を選定している。</p> <p>西側の敷地の整備工場があったと思われるところは、こういった物質が過去に使われていたのかが不明なので、調査の対象としては全項目を対象にして調査をしていくことが適当だろう判断している。</p>	8/22 部会にて回答
	3	<p>調査は汚染のおそれが多い地域、汚染のおそれがある地域、汚染のおそれがない地域として分類されると思うが、物質ごとの範囲について教えて欲しい。法令に基づく調査として実施される範囲の情報を適切に公開していくことで、地域の皆様の安心につながると理解している。</p>		

項目	番号	指摘 質問事項等	事業者の説明等	取扱い
土壌汚染	4	コメントとして、対象地内に地下水位の監視井戸を設けると見解書から読めるので、水位だけでなく、地下水質をモニタリングしてはいかがか。特に上流側、下流側でモニタリングできると、事業対象地の影響も把握できるので、地域の皆様も安心すると思うので、検討をお願いします。	現時点では対象外ということで考えている。 調査計画書の段階でも、水質については現地調査を実施していないということもあり、現時点では考えていない。	8/22 部会にて回答
	5	土壌汚染対策法ではPFOS、PFOA等は対象外ということで、今回の地歴調査等の対象になっていないが、泡消火剤や、もしくは何か大規模な消火の事例があった等、そういったPFOSの汚染が疑われるような履歴ということも確認されていないということではよろしいか。	御認識いただいているとおりで、そういった経過については確認できていない。	8/22 部会にて回答
			対象地におけるPFOSの汚染のおそれというのは、ほかの土壌汚染の物質、今回対象としているもの以外と同様に高い状態ではないと理解した。(コメント)	
地盤 水循環 共通	1	深層地下水について、地下水の揚水はしないと、深層地下水の直接的な影響は考えにくいという説明は妥当である。ただ、資料1で昭島市長からの意見として、水道水源も含めた深井戸への影響はモニタリングしないのかとあったが、それについてはいかがか。	深井戸に関しては、現時点で調査をするつもりはない。 浅井戸に関しては、今回計画地の外周で観測井戸を設けているので、工事中と、完了後1年程度は経過を見ていくことを考えている。	7/25 部会にて回答
		敷地内に深井戸が何本かあって、今回もこの事業では使わないというが、本当に何も使わないのか。そのままにしてしまうか。	やめる場合は昭島市に廃止届を出さなければいけないと思う。現状、私どもで管理をしておらず、現在使っている事業者から引渡しを受けるので、その時点でどうするかは、まだ決まっていない。	7/25 部会にて回答

項目	番号	指摘、質問事項等	事業者の説明等	取扱い
地盤 水循環 共通	1 (続き)	<p>井戸をクローズするのも一つの選択だが、深層地下水の環境について、水位を観測して昭島市に報告する、もしくは、防災用の井戸として活用するといった地域貢献もあり得る。</p> <p>基本的には、深層地下水への影響は今回の工事の深度からすると考えにくいだが、8.4-16 ページに示した帯水層区分は、昭島の地盤沈下観測井での話で、全く同じ地質が周囲にずっとつながっているわけではない。だからこそ、ボーリング調査をして、地域の地質をきちんと把握していると思う。浅層地下水と深層地下水を分ける難透水層が、ずっと同じ層厚で分布するのではなく、連続性が悪い、層厚が薄いということもあり得る。</p>		
		<p>事業者の説明で、深層地下水に影響はないというのは、それはそうだが、相当不確実性もあると思う。例えば地質の連続性や、工事で予期しないことがあるなど。</p> <p>水質ではなくて、まず水位のモニタリングを行い、地下水の量や流況に対して工事が影響を与えるのかどうか。水位を観測できるようであれば、例えば昭島市と相談の上、測定等の活用はあるのではないか。</p> <p>不確実性もあり、昭島市は深層地下水がとても大事だという背景があつて、昭島市長、地元からも検討してほしいとお願いされていて、観測できそうな施設があるという条件があるので、ぜひ御検討いただきたいと思う。モニタリングして、確かに予測どおり影響はなかったんだということをしっかりと科学的に、データで示していただければ、それは一番の証明だと思う。</p>	<p>深井戸は、今はホテルにあると思うが、現状の深井戸がどういう形状になっている、どういう使い方ができるのかというのは、現時点で知識がないので、それは検討させていただきたい。</p> <p>解体等をするときにそもそも残せるのか、そういった点もあると思うので、多角的にみていいやり方があれば、そこは検討すべき内容だと思うので、検討させていただきたい。</p>	8/22 部会にて回答

項目	番号	指摘 質問事項等	事業者の説明等	取扱い
地盤 水循環 共通	2	<p>浅層地下水について、掘削深度や構造物の設置深度が地下水面より浅いから浅層地下水には影響しないと説明しているが、その深度での揚水や構造物、掘削だけではなく、表面からの雨水浸透のプロセスが変われば、当然浅層地下水面の高さに影響する。</p> <p>地下水涵養量が変わると説明があったので、浅層地下水に影響を与えることは十分にあり得る。掘削深度が地下水面より浅いから浅層地下水に影響を与えないとの考えは改めたほうがよい。</p> <p>その上で、周辺の湧水や井戸の状況を 8.4-22 ページに書いているが、青い丸が浅井戸か。</p>	<p>青い丸は災害用の井戸になるので、浅い井戸かと言われると一概にそうとは言い切れない。</p>	7/25 部会にて回答
		<p>周辺の井戸は、雑用水の利用を含めて、災害用井戸や企業の井戸だけではなく、一般家庭用の井戸はないのか。周りの方への聴き取りはしているのか。</p>	<p>一般の御家庭で使われている井戸について、今のところ資料では確認できていない。</p> <p>聴き取りなどはしていない。</p>	
	<p>周辺の方に聞く、昭島市役所に相談するなどしたほうがいい。</p> <p>調査計画書でも、この地域は地下水への関心が高く、湧水や井戸もあるから、きちんと見るようお願いしたと思うので、慎重な対応をしていただきたい。</p>	<p>承知した。</p>		
	3	<p>表面の被覆形態が大きく変化するため、雨水浸透施設が地域の水循環への影響を低減するということが非常に重要になる。</p> <p>委員としても非常に興味を持っているが、雨水浸透施設の設置状況が全く書いていない。どこにどういったものをどれぐらいの規模で設置するかについて見通しがあれば教えて欲しい。</p>	<p>具体的な絵は、今検討している。</p> <p>1か所に大きなものということではなく、各棟の建物回りや、道路に浸透施設を分散させて整備していくことを検討している。大きさもそれぞれになる。</p> <p>先ほど浸透のプロセスが変化すると浅層地下水に影響があるという認識は持ちつつ、なるべく分散させて浸透施設を整備していくことによって、今回の計画地全域で一定量しっかり浸透させていくという考えを持って動いている。</p>	7/25 部会にて回答

項目	番号	指摘 質問事項等	事業者の説明等	取扱い
地盤 水循環 共通	3 (続き)	<p>計画段階で難しいと思うが、この地域の地下水面の形状、分布、地下水の現況を把握した上で設置してもらいたい。地下水への影響を考えた場合に、それぞれの高さの関係で地下水の流れが変わるので、流れも意識して設置してもらいたい。</p> <p>具体的には、地下水面の高さを8.4-25 ページで報告しているが、この高さだけではなくて、地下水位等高線図をつくり、それを踏まえて設置したということを示してもらいたい。</p> <p>例えば、昭島市の報告書で北西から南東方向に地下水が流れているが、これが本当にこの方向でいいのか、もっと細かく見ると違うのか。地下水は低いほうへ流れるから、特に気をつけなければいけないところは、下手側になる。そういったことを踏まえてやったほうがいい。</p>	<p>承知した。実際に地下水の水位を見ていくと、昭島市でまとめている浅層地下水の流れ、北西から南東へ流れる、そういった地下水の高さが見えてきているので、先生のおっしゃった内容についてはしっかり資料としてまとめていきたいと思う。</p>	
		<p>現段階では、施設の配置や規模について明らかにできないということだが、どの時点で示していただけの見込みなのかを教えてください。</p> <p>雨水浸透施設については、可能であれば、評価書の中に盛り込んでいただくか、この場で示していただいて、それについて妥当であったのかというのを事後調査で見いただくのがアセスメントの中ではとてもいいのではないかと思いますので、ぜひ御検討いただきたい。</p>	<p>浸透施設の規模的、設計条件や、実際の具体的設計内容については、今まさに進めているところで、確定のものではないが、進捗状況を再度確認の上、この場でお出しできるかどうかも含めて、検討させていただきたい。</p>	8/22 部会にて回答

項目	番号	指摘 質問事項等	事業者の説明等	取扱い
地盤 水循環 共通	4	今のところは過去のデータに基づいて降水時のピークを考えているが、昨今の集中豪雨的なもので考えるとこれからの時代はそれでは対応できなくなっていき、浸透ますをつくるにしてもかなり大きなものをつくっていかねば対応していけないのではないかという危惧を持っている。これから計画をつくるので、いろいろと検討してもらいたい。	当然、昭島市としっかり協議、対応を考えながら、計画を立てて設計をしていければと考えている。	7/25 部会にて回答
	5	表面流出量について、ピークのときの表面流出量を計算し、そのあとで数値を具体的に書いて、表面流出量が増えるという説明だが、これはあくまでも計画した降水量に対する表面流出量なので、そこはきちんと書いたほうが誤解を招かなくていいと思う。 計画している降水量は、特に気をつけなければいけないような非常に大きい降水量であることをきちんと書いたほうがいい。(コメント)		
	6	調査計画書ではデータセンターの冷却に水を使うという説明で、水は蒸発を想定していた。 今回、計画変更で、水は使わず、空冷にするということだが、蒸発では水の相変化で、潜熱なので、周りへの熱の影響は少ないと思う。空冷だと周りに熱を放出するが、どの程度影響があるのか。 データセンターの熱量自体が分からないので、見通しを教えてください。 地下水の影響を懸念して、深いところの水は使わないということが、ほかの環境の悪化につながってしまえば、トレードオフの関係になってしまえば問題だ。	熱に関しては、心配点として認識しており、CFDで検証している風と併せて熱の収支も検証している。 その際に、設備関係からどれくらいの熱量が出るのか設定をして、一定の条件下での検証をしているが、今のゴルフ場としての状態と、計画地が成立して、建物ができ設備が動いている状態とで、熱収支、地表面での熱の感じは、ほぼ変わりはない、若干変わるところは当然、設備ができて上がるのであるのだが、大きな熱の変化というものまでは検証されなかった。説明会等で地元の方からも質問をいただいて、同じ回答をしている。	7/25 部会にて回答

項目	番号	指摘、質問事項等	事業者の説明等	取扱い
地盤 水循環 共通	6 (続き)	<p>シミュレーションの結果を元に行っていると思うが「地表面での熱の感じは、ほぼ変わりはない」と御説明いただいているのは違和感があった。地表面の被覆形態が相当変わるので、一般的な感覚からしても、芝生の上と舗装の上では熱の感じは大きく変わってくると思う。「ほぼ変わりはない」という説明の根拠のようなものがあれば教えていただきたい。</p>	<p>敷地内であれば当然、芝から人工物に変わるので、熱の収支、表面上の話としては完全に変わるというのは、おっしゃる通りだと思う。</p> <p>今回CFDで検討しているのは、計画地の外側の、一般の方が体感される環境としてどうなのかを、風のシミュレーションと併せて行っており、そこに関しては、温度的な条件を与えて検討したが、さほど大きな変化は見られなかった。敷地内ではなく、敷地外としての話で御認識いただければと思う。</p>	8/22 部会にて回答
		<p>熱のシミュレーションについては、データセンターからの排熱を当然考慮してということか。</p>	<p>表面上の変化も含めて、熱、データセンターからの排熱も含めて、物流倉庫もそうだが、想定し得る範囲のものを含めた中で、温度変化を検討した。</p>	
水循環	1	<p>今回、散水などもするということがヒートアイランドの緩和ということだが、上水を利用されるということで、どれくらいの上水の量になるのか。昭島市と調整していると思うが、上水をつくるのにもエネルギー、CO₂を出しているの、例えば雨水の利用とか、地下水の利用とか、上水を使わない方法はあるのではないか。</p>	<p>現時点では上水を使って、施設に必要な水を賄うことを計画しており、量については、昭島市の水道局と協議をしていて、エリアでの将来的な見込みも含めて、使える総量が決まっているので、その範疇で施設の運用をやっていきたいと思っている。</p> <p>水量等については、現時点で具体的な計画を書いていないが、我々が事業をすることで周りの水が足りなくなるとか、そういったことがないように、上限については厳しくお話しいただいているので、そこをきちんと守って使っていく。</p>	8/22 部会にて回答

項目	番号	指摘、質問事項等	事業者の説明等	取扱い
生物・生態系	1	<p>評価書案 8.6-105 ページで、アニマルパスを整備して、大幅な土地利用改変に対する動物群集の保全に寄与するようなことが書かれているが、代官山緑地とその北側の森をつなぐ道路が横断してしまうので、そこにアニマルパスを設置すると思うが、これが何本で、どのぐらいで、何を想定しているのか、説明をお願いします。</p>	<p>アニマルパスについて、施設配置図の中央に薄い緑で代官山緑地があり、その北側に公園、濃い緑の部分がある。間に道路が通り、アニマルパスは、薄い緑の代官山緑地と濃い緑の間、道路の下を通すトンネルを整備しようと検討を進めている。</p> <p>詳細な検討図はまだでき上がっていないが、代官山緑地は計画地の外側で改変が難しいこともあり、策を練っている。</p> <p>濃い緑の公園のところは、今のゴルフ場の地形、緑地、緑、樹木といったものを残しつつ、更に追加して、計画地内にある比較的良好な樹木は移植をし、低木類は新植していくような形で、緑地環境として充実化を図っていくことを考えている。</p> <p>アニマルパスに関しても、入口、出口のところは、そういった緑地を整備することによって、生き物に対して、姿を隠していけるような環境もつくって整備をしていきたい。</p>	7/25 部会にて回答
		<p>アニマルパスだが、代官山緑地と北側の森を分断する道路がロードキルの原因になるという懸念からだと思うが、例えば、この道路だけを夜間使わないとか、生き物、例えばタヌキだと夕方日が暮れた直後あたりがすごく活発に活動する時間なので、例えば午後6時から10時まで道路を使わないとか、そういったロードキルを防ぐような対策は計画されているのか。</p>	<p>道路については、最終的には公道として市に移管をしていく形になっている。そういった中で、その時間帯だけ閉鎖をするということについては、現状考えていない。</p>	
	2	<p>8.6-122 ページに「自然環境に配慮した池を創造することから、生息環境の回復が見込まれる」と書かれているが、今画面に出ている代官山緑地の北側の森林の丸いところかと想像しているが、これは何の生き物の生息環境の回復のために、どのぐらいの大きさで、どういう池ができるのかをお伺いしたい。</p>	<p>池について、質問があった場所が濃い緑の中の丸くなっている部分かと思うが、現時点で考えているのはそこではなく、地域貢献棟、代官山緑地の南側である。</p> <p>こちらの修景として、具体的な池の形状、深さ、どのような見せ方をしていくのかはまだ確定していないが、南側の方に整備していくことを考えている。</p> <p>池は、注目される両生類として、カエル類が計画地の中、周辺でも確認されているので、それらを対象にした池になればと考えている。</p>	7/25 部会にて回答

項目	番号	指摘、質問事項等	事業者の説明等	取扱い
生物・生態系	2 (続き)	両生類を保全する池ということだいいと思うが、カエルなど両生類が動く範囲を考えると、玉川上水に近いほうがいろいろな生き物との関わりとして池があってもいいのかもしれない。しかし、地域貢献棟のほうに池ができるということで、それについても事後調査でしっかりと、池の存在の意義や、ロードキルはどれぐらいアニマルパスで防げたかななどの詳細なデータを出して、有効性について確認して頂きたい。次の別の計画ができたときに、ロードキルをどれだけアニマルパスが防いだのかといった様な実績がとても大事だと思うので、ぜひ事後調査についても検討いただければと思う。	事後調査に関してもしっかりと対応していきたいと思う。今後取れるだろうデータが有効性を持って別の事業とかでうまく使えるようなデータになるように、しっかりと対応していきたい。	
	3	8.6-12 ページに緑の量の変化の程度が書かれている。この計画は土地利用を大幅に改変して、緑の量が減るわけだが、都民からの意見書の回答を見ると、「緑の面積が最終的には20.6%保たれるから」という説明がされていて、緑の質に対する回答が見当たらない。緑があればいいというわけでもないと思う。 緑の質について、どういう植物を植えるつもりなのか、どういう生き物を担保するために、どういう植生を保つと考えているのかを伺う。	緑地に関して、特に北側の玉川上水沿いは、緑地、樹木としても、基本的には残していく考えである。 新たに整備する緑地に関しても、ゴルフ場内で良好と思われる樹木は、可能な範囲で移植を行い、かなり高木になるが、そういった樹木を移植することによって、現状の緑の環境をなるべく維持していけるように、緑地の整備をしていきたい。 整備した緑地をしっかりと担保していかなければ、生物に対しても配慮にならないので、新植するときには地域の地域在来種を選定していきたい。それらをしっかりと維持管理していくことによって、今回の事業の建物等が全部でき上がったあとに、緑地に生物が戻ってこられるような環境を整備していきたい。	7/25 部会にて回答

項目	番号	指摘 質問事項等	事業者の説明等	取扱い
生物・生態系	4	<p>評価書案 8.6-58 のオオタカの営巣中心域の図にあるように、代官山緑地の西側の緑地にも幼鳥が入っていたり、オオタカの営巣関係では非常に重要な地域だと考えられる。本計画では、この代官山緑地の西側の緑地は物流施設の建設予定地となっており、ほぼ全部の木が伐採されるだろう。</p> <p>オオタカは非常に重要な種なので、保全対策は十分にしていきたいが、評価書案の 8.6-105 ページの鳥類のところには、オオタカについての記述がない。なぜここには記述がないのか。</p>	<p>オオタカに関しては、8.6-110 ページで特化して書いている関係もあり、8.6-105 ページは一般鳥類という認識のもと予測結果の内容についての記述を整理している。</p> <p>御指摘いただいた内容を踏まえて、評価書の段階でこちらにもオオタカについての記述を書きおいたほうが良いということであれば、評価書において改めていきたい。</p>	8/22 部会にて回答
	5	<p>8.6-110 ページで「代官山緑地を中心として営巣しているオオタカをなるべく刺激しないように工事をします」と書かれているが、「遠くから工事を開始して、だんだんオオタカに慣らさせていく」といったことも記述されている。</p> <p>オオタカを工事に慣れさせるというが、オオタカが本当に工事に慣れていくのか、例えば多分オオタカは、工事に対して、どこかに回避していなくなるのだと思うが、それが本当にまた帰ってくるかという事後調査が非常に重要だと思う。</p> <p>このような方法は前例があるか伺いたい。</p>	<p>例えば昭和記念公園の西側で開発が過去に行われていて、長期にわたってモニタリングがされていた案件があったかと思う。そちらも敷地内にオオタカが営巣していたかと思うが、工事もしつつ、モニタリングも並行して行いながら、営巣し続けている状態で施設が完成したというような経過があったかと思うので、そういった経過を参考にしながら、工事を進めていきたい。</p> <p>また、代官山緑地の東側に老人ホーム等の建物が既に建っているが、当時オオタカが代官山緑地の中に営巣していて、工事中もある程度配慮を行い、その後も営巣は継続したという状況があった。我々の所有の前の話だが、そういった事例があったことを補足したい。</p>	8/22 部会にて回答
	6	<p>オオタカについて、工事完了後の事後調査とモニタリングをどのように実施していくかと、それに対して保全にどう取り組むかについては、記述が少ないのではないかと。</p>	<p>評価書案の中では、御指摘のとおり、詳細に記述していない。</p> <p>現地調査は、月のうち3日間連続で行い、猛禽類の保護の進め方等を参考にしながら行った。工事中、施設完了後1年目、もしくは、確認状況次第ではあるが、少なくとも工事期間中はオオタカの営巣状況等については同じような形で調査を進めていきたいと思っている。</p> <p>具体的な調査の方法は、評価書を出すタイミングとほぼ同時期になると思うが、事後調査計画書で公表することになると思う。</p>	8/22 部会にて回答

項目	番号	指摘 質問事項等	事業者の説明等	取扱い
生物・生態系 自然との触れ合い活動の場 共通	1	<p>道路を挟んでではあるが、代官山緑地の北側は割と大きな緑地を残して保全をしようとしているが、例えば 8.12-28 ページの図だと、かなり歩道が整備されて、人が多く入ることができるようになっており、生物の保全をやりたいのか、自然との触れ合いの場を重点にしたいのかが分からない。</p> <p>生物の保全のほうを重点にするのか、自然との触れ合いの場を重点に置くのかをきちんと考えて、両方にいい顔をしないで、きちんとゾーニングをすべきだと思う。どのように考えているのか。</p>	<p>自然との触れ合いの場と、自然保護をしようとしている代官山緑地、2つが接しているような場面だが、そのあたりはもう少し、歩道の位置関係も含めて考えていくところもあるかと思う。</p> <p>ただ、現状の代官山緑地の北側は、現時点では閉鎖しているが、ゴルフ場であり、おそらく 100 名とか 200 名の人が常に歩いているような場面だったので、そういった観点からすると、そんなに大きな環境の変化はないかと思う。</p> <p>周りの地域の状況から考えても、遠くからものすごく人が集まってくるような歩道ではなく、近隣の皆様が散歩として使うような公園になるかと思うので、そういったところがうまく両立していけるような空間を整備していくべきかと考えている。</p>	8/22 部会にて回答

項目	番号	指摘、質問事項等	事業者の説明等	取扱い
生物・生態系 自然との触れ合い活動の場 共通	1 (続き)	<p>評価書案の 8.12-28 ページを見ると、西側にある上水公園から遊歩道が入って、人が敷地内に入るように見える。ゴルフ場だったときは、ゴルフをする人しか歩いていなかったと思うが、上水公園、または、地域貢献棟から人が敷地内に自由にできるようになったときに、どれぐらいここを歩くのか、ゴルフ場だった頃は全然違うと思う。</p> <p>人がどのように入って利用するのか、事後調査は非常に重要だと思うし、代官山緑地の北側にアニマルパスを通してアナグマを守るとか、いろいろな生物保全の地としても使おうというのなら、やはりしっかりとゾーニングするなり、人がここからは入れないようにするなり、保全区域みたいなものを設けるのか、設けないのかといった計画を立てないと、この評価書案の内容がいろいろなところにおいていいことを言っているとしか思えないので、この辺をきちんとしていただきたいと思う。</p> <p>私個人の意見で科学的根拠はないが、ゴルフ場で芝一面だったから自然がないかということ、決してそうではなく、ゴルフ場の片隅だからこそ守られている植物や生き物というのは必ずいると思う。今回、大幅な改変をすることで、そういう小さな生き物たちを全滅させてしまう可能性もある。</p> <p>前の土地がゴルフ場だったからというのは全く理由にならず、これからどういう自然保護に対する保全措置を取っていくかという、自然への意気込みみたいなものをきちんとしていただきたい。(コメント)</p>		

項目	番号	指摘 質問事項等	事業者の説明等	取扱い
生物・生態系、廃棄物 共通	1	<p>廃棄物の伐採樹木量や移植、植樹に関する意見がたくさん出ているが、そこを定量的に示さないと、都民の皆さんも本当にこれが担保できるのだろうかと不安になると思う。</p> <p>6-14 から 17 ページあたりに緑化計画が書いてあるが、通常そこに都市計画の求められる緑化率があつて、それに対して計画の中で「それ以上確保する」という書き方をするのだと思うが、この評価書案では、最後まで読んでやっと「20.6%確保する」というのが出てきて分かりにくい。</p> <p>評価書のときは、できるだけ定量的に、「何本倒して、その代わりにこれだけ移植する」などという説明のほうが分かりやすいので、書き方を工夫すれば、都民の皆さんも納得するのではないかと思う。</p>	<p>どれだけ緑を残していくのかを、評価書の中での早いところ、事業計画のところでもしっかり書き込むということで対応を考えていきたい。</p> <p>ごみの量に関して、伐採本数に関しては、まだ今後検討という形で見解書でも書いている。</p> <p>今回、廃棄物の量として出しているのが、緑の構成上、一定規模の中にどれくらいの樹木があるのかというところは、調査の中で把握している中で、それを面積的に整理した中で、改変される部分の面積がどれくらいか、それに対してどれくらいの樹木の量になってくるのかを、計算しており、一本一本、どれくらいでということまでは計算していない。</p>	7/25 部会にて回答
		<p>改変面積に対して樹木の高さを掛けて、伐採樹木量を算出されるというのは理解したが、やはり一般の市民にすると、「何本切って、どのぐらいの廃棄物量が出てくるのか」という説明のほうが分かりやすい。アセス図書というのは住民の方に分かりやすく説明するという趣旨のものなので、分かりやすいように書けば、こんなに意見が出てこないかなと思う。</p>	<p>できる範囲で対応していきたいと思う。</p>	7/25 部会にて回答
日影	1	<p>評価書案 8.7-31、32 ページに、日影法規制図を示しているのが、8.7-32 ページから先は、建物単体ごとに出している。一方で、8.7-31 ページ等、それ以前の全体の日影図などは、複数の建物を合算した図としている。</p> <p>この 8.7-32 ページは一緒に建物をつくるのであれば、複数の建物を合算したもので示すべきではないのか。</p>	<p>8.7-31 ページ目以降に関しては、建物単体で、法規制として守れているかを確認している図面であり、平均地盤面から +4m で日影の線を書き、法的なチェックをしている。</p> <p>それ以前の 8.7-19 から 30 ページまでは、平均地盤面 ±0m で、敷地があまりにも広いので、西側と東側の敷地に分けて、それぞれの敷地ごとの単体で、複合日影という形で予測評価、日影線を書いている。</p> <p>冬至日の時刻別、等時間日影図、それと、そのほかの季節ということで、春秋分と夏至についても、掲載している。</p>	7/25 部会にて回答

項目	番号	指摘 質問事項等	事業者の説明等	取扱い
日影	1 (続き)	<p>1つずつの建物が合算されて周辺の建物などに日影がかかるので、一般的にはまとめて複数の建物を1つの事業者が確認申請を取るときには、それらを合わせた状態で確認申請を取っていると思ったが、今回の32ページのような単体でやって法規制をクリアするという意味か。</p>	<p>その通りである。 ただ、8.7-31 ページは、データセンターの1から4をまとめて日影の線を書いているが、こちらは、1つの敷地の中で、一団地という形で一まとめで書いている。そういった観点で、この図面に関しては、4棟まとめた日影図となっている。</p>	7/25 部会にて回答
		<p>法律上クリアしても、まとめたの開發で、周辺の住宅地などに日影がかかっているのでは、個別にクリアというのではなくて、全部まとめた上で、この団地はどれくらい周りに日影を排出しているか示すのが誠実かと思うが、その辺の配慮を検討していただきたい。 前のページの西、東でそれぞれやったもので見ると、おおむねクリアしているのではないかと思うが、これらと細かく比較すると大分違うということも、周りの方にあらぬ誤解を招くかもしれないので、その辺を配慮してはと思う。</p>	<p>承知した。</p>	7/25 部会にて回答
風環境	1	<p>都民の方の意見からも多少風環境についての不安が出ている。評価書案では、建設前後でランク2が維持されるものが若干ある程度で、ほとんどランク1で、数字上ではあまり問題はないように思えるが、計算などのシミュレーションの状況を教えていただきたい。 計算において、「防球ネットは含めない」と書いている。ゴルフ場横の球が飛んでいかないようにするものだと思う。当然、ネットも目が細かければ防風効果はあるし、粗ければあまりない。計算に入れなかった根拠として、どんなネットだったか、補足していただきたい。</p>	<p>防球ネットに関しては、ゴルフ場稼働時に整備されている、外に飛び出た行かないように配慮されているネットなので、それなりに目の細かいものである。 解析上見込まなかったのは、CFDの再現上難しかったというのが正直なところではあるが、現状のゴルフ場閉鎖の段階において、防球ネットは安全上の観点から取り外し、支柱だけが建っている状況であり、その現状を再現することを目的に置いて解析を行い、安全を見る形で再現している。</p>	8/22 部会にて回答

項目	番号	指摘 質問事項等	事業者の説明等	取扱い
風環境	2	<p>残存樹木をモデル化して計算に入れ、移設の樹木はまだ入れていないから、それが入ったらさらに風は減るだろう、といった回答もしているが、残存の扱いのところ、評価書案の8.9-23にある、緑色のものがそれだと思うが、これでフィックスしているものなのか。</p> <p>また、移設後に、あちらこちらに植えることになるが、それは事後調査を見た上で、ここに植えたら防風効果になるといった配慮をするのか。完成後の事後調査はどんなところで取るかといったことも含めて、教えていただきたい。</p>	<p>評価書案 8.9-23 ページ、図 8.9-11 で緑の丸で示しているのが、解析上残している樹木となっており、まだ検討を継続中で、これ以上に残せるものも当然出てくると思うが、敷地の境界沿いでほぼ確実に残せると思われるものに関して、残した状態で解析を行った。</p> <p>また、今後、移植等で増えていくものについては、現状で解析している以上に防風効果が得られるものと認識しており、解析結果として、現状と将来の風環境の変化はあまり大きく見られなかったもので、実際に事業が行われたときは、より風環境としては効果のある環境が形成されていくものと判断している。</p>	8/22 部会にて回答
	3	<p>ランクの説明なども、年間を通しての最大瞬間風速の累積頻度のような、実感として分かりづらいところもあるので、周辺住民の方々に説明する機会があれば、数字の実感と対応する意味で、クリアしているからいいではなく、肌体験として伝わるような説明なども工夫していただきたい。</p>	<p>説明する機会もまたあるかもしれないが、評価書においてより分かりやすい図書となるような努力はしていきたい。</p>	8/22 部会にて回答

項目	番号	指摘、質問事項等	事業者の説明等	取扱い
景観	1	<p>非常に多くの意見の中に、景観も多々指摘があり、特に物流施設L-1が、巨大なマスとしてドンとシミュレーションなどに出ているが、このファサードの色彩などは、いろいろな条例に従う、検討するという程度しか書かれていない。</p> <p>現状では仕方ない部分があると思うが、この部分が単純に色彩のガイドラインに合ったものがベタ塗りになったら、ルールに従っていてもかなり存在感が強烈になると思う。</p> <p>評価書案にも意匠も含めて検討するとあったので、配慮を期待しているが、デザインについて、具体的にいろいろなプランを出して、周辺の方々と検討するなど、周辺の方々にとって「これぐらいだったら許容できる」というような、そういう意匠をひねり出すような計画などを考えていけばいいと思ったが、いかがか。</p>	<p>意匠に関しては、まさに計画を、詳細に詰めているところである。</p> <p>当然、行政機関にも相談して、確認してもらうこともあるので、その中ではしっかり対応していきたいと思っている。</p> <p>また、色彩に関しても同様に、奇抜な色を使うつもりはないので、地域に溶け込む、なるべくなじむような色の選定をしていきたいと思っている。</p> <p>今検討を進めているところで、まだ確定しているものではないが、しっかり対応をしていきたいと考えている。</p>	7/25 部会にて回答
		<p>色彩は単に色だけ選ばばよいのではなくて、実際のファサードに塗って、ある光のもとで周りとの対比を見ながら初めて、それが奇抜なのか、許容できるのかが決まってくるので、周辺の緑化と合わせて、できるだけ現実の出来上がりを想定して検討を進めてもらいたい。</p>	<p>承知した。</p>	

項目	番号	指摘 質問事項等	事業者の説明等	取扱い
景観 史跡・文化財、自然との触れ合い活動の場 共通	1	景観、自然との触れ合い活動の場は、玉川上水と非常に密接な関係があり、史跡・文化財、景観、自然との触れ合い活動の場については、その3つをうまく調和させるような方向性での考えを持ってもらいたいと思うので、その辺の見解を伺いたい。	<p>景観、文化財、自然との触れ合い活動の場の関連だが、特に玉川上水沿いに関しては、計画地内の樹木は、基本的には残存、地形もいじらず残存させていくことによって、玉川上水とつながっている箇所に対しての配慮はしっかり対応していきたい。</p> <p>そういった観点でも、北側からの景観、見え方に関しても、それら樹木が残ることによって、一定の配慮はできていると考えている。</p> <p>自然との触れ合いの観点だと、残していく緑地、樹木をうまく活用しながら、周辺の皆様に開放していく散策路を整備していくので、玉川上水北側にしか緑道は整備されていないが、計画地側にも散策路をつくることによって、両側も使えるような形で、歩きながら自然を感じてもらえるような空間をしっかりと整備していきたい。</p>	7/25 部会にて回答
史跡・文化財	1	確認も含めてだが、史跡・埋蔵文化財関係で、昭島市教育委員会との連携が取れているか。	今後しっかり対応をしていきたい。各種、昭島市とはいろいろ話し合いをしているところで、この点についても同様と思っている。	7/25 部会にて回答
	2	ここは史跡玉川上水のことを非常に重要である。玉川上水の範囲については大丈夫だということで先ほど説明があったが、それはその景観も含めてきちんと対応するというのを、まず姿勢として確認しておきたい。	玉川上水の範囲、特に改変することはないと説明したが、もちろんそのつもりでしっかり対応していきたい。今後、施工業者が決まってくるが、その業者に対してもしっかりとレクチャーした上で、無用な立入や改変とか、そういうことがないように、しっかり監督していくことになろうかと思っている。	7/25 部会にて回答
	3	<p>都民の意見等で疑問が出ていたので、私からも確認したいが、彫刻園のほうはどうなるのか。</p> <p>それから、フォレストイン昭和館の今後の扱いについて。</p> <p>既に書いてあるのかもしれないが、皆さんの声にもあるので史跡・文化財として質問する。</p>	<p>武藤順九先生の彫刻園が現在、代官山緑地の中で運営をされている。基本的にそのまま継続をしていくことで、検討している。工事中はどうしていくかなどは、武藤順九先生も含めて検討していく。</p> <p>フォレストイン昭和館は、運営は私どもではないが、営業は来年の1月末までとホームページ等で公表されている。</p>	7/25 部会にて回答

項目	番号	指摘 質問事項等	事業者の説明等	取扱い
史跡・文化財	4	<p>史跡玉川上水は、江戸時代に開削されて、武蔵野の田畑を潤す用水として分配され、江戸城の泉水、江戸の市民たちの上水となっている。東京都の東半分の区部だけではなく、西側の市域の発展にも、産業、生活、文化に大変重要なキーを果たしている。当然ながら、史跡そのものと一緒に、周囲の景観保全というものも問われている。</p> <p>自然勾配、自然流下で分配されたこの技術は、エネルギー負荷が非常に少ない水道技術として、現代のエネルギー問題を考える上でも非常に重要だろう。</p> <p>こちらを後世にどうやって受け継いでいくのか。工事中についてもどういった配慮がなされるのか伺いたい。</p>	<p>計画において玉川上水を触ることはなく、今回、玉川上水の南側の部分は、一皮現状の地盤のレベルや樹木を極力残したような形にしていく。</p> <p>加えて、建物自体も数十m玉川上水からセットバックをしており、例えば重機等が通る場合も、きちんと離隔を取ってやっていき、直接的に、例えば土砂をその中に落としてしまうとか、そういったことが一切ないように工事計画を、施工会社ときちんと話し合いをした上で対応していきたい。影響がないようにきちんと工事をしていくということで御理解いただければと思う。</p>	8/22 部会にて回答
		<p>それは検討ではなく、担保するというような理解でいいのか。</p>	<p>当然そのようにしていく。玉川上水や隣地なども含み、影響がないように工事をしていく。</p>	
廃棄物	1	<p>評価書案 8.13-25 ページの表 8.13-31 に関して、供用時の廃棄物の再資源化等の計算をしているが、本事業の再資源化等率目標値が、一廃だと 37.1%、産廃だと 36.4%という数値が入っている。</p> <p>8.13-24 ページを見ると、一廃は段ボールがほとんどを占めていて、産廃に関しては廃プラが一番多いと受け取れるので、この辺の再資源化の考え方をどのように考えて目標値を設定されたのかを教えてください。</p>	<p>今回の事業では、物流倉庫もしくはデータセンターの建物を整備し、入居企業に貸す形を取っている。</p> <p>入居企業でごみの処理などは個々にやるので、一概に企業努力での統一的な数字が見出しにくいという背景がある。</p> <p>そこで、評価書案 8.13-9、10 ページに、東京都、昭島市の将来推計としての目標値が資料としてあり、そこからは最低限守ろうという観点で目標値として採用している。</p> <p>各テナント企業に対して、入居するときに施設管理者、事業者としては、極力再資源化に努めてほしいと、お願いベースになるが、しながら、しっかりと対応してもらえよう、確認等は個々にやっていくことで対応していきたいと考えている。</p>	8/22 部会にて回答

項目	番号	指摘 質問事項等	事業者の説明等	取扱い
廃棄物	1 (続き)	<p>現状は一廃の場合、20%とか30%ぐらいが資源化率としては標準値だが、段ボールがメインなので、それに関してはもう少し高い目標値を持っていいのではないかと。また、産廃の廃プラに関して、プラスチック資源循環促進法が新しくできたので、法律の趣旨も踏まえ、資源化はもう少し高い目標値を持っていいのではないかと。評価書でももう少し見直しをしていただけないか。</p>	<p>御指摘の資料等を再度確認させていただきながら、見直しのほうは確認の上進めていきたいと思う。</p>	8/22 部会にて回答
温室効果ガス	1	<p>PUE1.4以下となっているが、省エネ法で2030年1.4というのが決まっているので、省エネ法は充足するのだろう。</p> <p>しかし、GLPの本拠地であるシンガポールだと、今1.3以上のものは建てられないとことになっており、世界基準で見ると、今日本の基準が遅れている状況にもある。</p> <p>省エネ法上の計画提出も、全体の建物としての省エネ基準とエネルギー基準等はGLP社が報告するが、あとの部分はテナントの側で報告するため、対応できる場所に限りがあると思うが、非常に大きい企業で、新しい価値を波及していただくの力があるところだと思うので、例えばテナントを選定するときにも、より機器の効率性に配慮したところにする、物流施設に関してもEVをある程度導入するようなどころにする等、影響力で規範を波及していくという役割も果たしてもらいたいというのでもあって、PUEは低めに考えていただきたい。もう少し下げてもらえるのか伺いたい。</p> <p>データセンターは、世界的に見ても、エネルギー消費量が最も拡大している分野なので、これから脱炭素といったときに規制しなくてはいけないが、需要もあって難しい。</p>	<p>PUEについては、GLPの中でも各国で多少基準が違うところもあり、各国の基準に合わせて一旦整備をしていくという形になっている。例えばGoogleであれば、自分たちが運用するものを自分たちでつくるが、私どもはテナントに貸す形になるので、どういった機能、機器を使われるかについては、テナントのほうで決めるというところがどうしてもある。</p> <p>そういった点から、各国の基準以下にPUEを下げるというところは、現時点では即答できない。</p> <p>一方で、中に入るテナントについても、電気代がかかってくるので、高効率の機器を入れていくという形が想定される。</p> <p>また、大きな意味で、環境に対して同じ方向へ向かっていく、それぞれの企業で持っている環境に対する目標に向けてやっていくという点については、テナントの誘致の際には、いろいろと情報交換をしながら、よりそういったところに共感をしてもらえるところを極力探していく、ということについては、おっしゃっていただいたような形になるかと思う。</p>	7/25 部会にて回答

項目	番号	指摘 質問事項等	事業者の説明等	取扱い
温室効果ガス	1 (続き)	<p>評価書案 8.14-1 にPUEの説明を脚注で入れており、そのこと自体は非常にいいと思うが、ここで、省エネ部会の資料を引いて、「システム保護のために設備の冗長性が求められるため 1.3 以上の数値は期待できないとされている」と書かれている。</p> <p>省エネ部会の J D C C、日本データセンターがプレゼンをした資料によると、データセンターを 3 つに分類して、事業用、企業内の DC、大学・研究所の DC、メガクラウド向けの DC があって、最初の 2 つ、事業用 DC と企業内 DC、大学・研究所 DC に関しては、確かに 1.3 以下は期待できないということは書かれているが、3 番目のメガクラウド向けについては 1.1 以下のケースもあるということが書かれている。</p> <p>Google やマイクロソフトはもう 1.1 を切ってきているので、それはメガクラウドのパターンなのか。</p> <p>そうであれば、多分、GLP だと事業用の DC に当たると思うが、そこは 1.3 以下に行くのは現状では難しい。なので、これからの効率性の改善等があれば 1.3 以下に行けるという、そういうニュアンスなのか。そこは、もし書くのだったら、誤解を生むので正確に、もう少し情報を入れて書いていただきたい。</p>	<p>もし大きなメガクラウドの会社が入った場合はメガクラウド用になり得ると思うが、テナントにどういったところが入るかは、現時点では何もはっきりしていない状況であるので、事業用データセンターをベースで今考えている。</p> <p>注釈については、資料を再度確認の上で、もう少し踏み込んで、分かりやすい表現に改めていきたい。</p>	8/22 部会にて回答

項目	番号	指摘 質問事項等	事業者の説明等	取扱い
温室効果ガス	2	<p>太陽光も入れるのは非常にありがたいが、7,300MWhであり、使用する電力消費量をざっと計算をすると、多分29,000MWhぐらい要り、おそらく4分の1ぐらいしか賅えない計算になる。PUE1.4で計算するともう少し下がるが、いずれにしても全部は賅えない。</p> <p>物流センターL-1、2、3の屋根に搭載する計画になっているが、データセンターの屋根は空けないといけないのか。もう少し太陽光発電を入れることはできないのか。</p> <p>太陽光に関しては、ほかの目的で使用しなければいけないところもあると思うが、入れられるだけ入れたほうが、電気代にも反映され、施設としての魅力も高まると思うので、できるだけ搭載してもらいたい。</p>	<p>太陽光については、物流施設は非常に屋根が大きく、それを活かして全面に敷いていくようなイメージで考えている。</p> <p>データセンターについては、建物のフットプリント、建築面積がそんなに大きくないと、屋上の部分に空調の室外機を並べ、太陽光パネルを置けるスペースがないということもあって、計画していない。</p> <p>仮にデータセンターに物流施設の太陽光を配っていくという形にしたとしても、やはり全てのエネルギーを賅えないというのは指摘のとおりだが、外から再エネを買ってくるかどうかについては、最終的にはCO₂を削減という大きな企業目標もあるので、検討していくべき内容だということでは考えているが、現時点では未定である。</p>	7/25 部会にて回答
		<p>残りの電力量というのは外から買ってくるということになってしまおうと思うが、そうなった場合には、通常の電力を買ってくるという計画になってしまうのか。</p>	<p>テナントの電力をどうするかは、テナントのほうで契約をするので、そこについても、施設側としていろいろ話をしていこうかと思うが、全てコントロールするのは難しい部分であるということで御理解いただきたい。</p>	7/25 部会にて回答
	3	<p>一括して施設整備側で再エネで契約してしまえば、かなりテナントに委ねるところが小さくなると思うので、そういったことも検討いただきたい。</p> <p>ほかの地方であれば、洋上風力から系統をそのまま引いてデータセンターを誘致するというようなこともやっていて、大電力消費施設として電力消費の問題は非常に大きく取り上げられているところなので、こちらの施設も、東京とはいえ、できるだけ温室効果ガスを排出しないような電力消費を考えてもらいたい。(コメント)</p>		

項目	番号	指摘 質問事項等	事業者の説明等	取扱い
温室効果ガス	3 (続き)	<p>GLPのほかの物件でそういったケースがあるのか、実際再エネをちゃんと買ってやっているのか。</p> <p>やはり非常に電力消費量の大きな用途であるので、エンカレッジして実際どうなのだというところは全く分かりませんということではなく、他の物件でどのような運用をしているのかという点を伺いたい。</p>	<p>データセンター事業を始めてはいるが、現時点で完成をして運用しているものがまだない。</p> <p>ただ、先行している物流施設の実態として、屋根の上に極力太陽光パネルを敷こう、再エネを大きくつくろうというのは、企業として努めている。</p> <p>物流施設は電力使用量が大きくないので、つくった電力を、まず施設で使っていくことを、新しい開発はほぼ100%やっている。</p> <p>かつ、その電力をテナントにも配れるようなしつらえにしており、各テナントと話をした上で、テナントにも再エネを使ってもらおうという契約をどんどんまいていっている。</p> <p>「グリーンリース」という言い方をしているが、そういった環境にいいことをビル側もテナント側も一緒にやっていくような契約の形になってきており、徐々にテナントも一緒にやっていく体制はできてきているかと思う。</p> <p>太陽光も、地方だとつくり過ぎても系統に戻せないという状況もあるので、ケース・バイ・ケースだが、系統に戻せる場合は売電をしていくことで、全体的な再エネを高めていくような取組もやってきた。</p> <p>データセンターについて、電力の容量のレベル感の違う話ではあるが、考え方としてはそういったところをやっていききたい。</p>	8/22 部会にて回答
	4	<p>都市ガスも利用するが、それは調理の部門で使うと言っていたかと思う。もしそうであるとすれば、ガスを使うと、そこはもうCO₂を排出してしまうので、調理をするのであれば、オール電化等も考えてもらいたい。(コメント)</p>		

項目	番号	指摘 質問事項等	事業者の説明等	取扱い
温室効果ガス	5	<p>PUEはデータセンター全体の消費電力を、IT機器等の消費電力で割って出てくる数値だが、どこまでがGLPの側で担保できるのか。要は箱物のところはGLPだと思うが、そこでどこまで1.4を担保できるのか、どこまでがGLPで、どこからがテナントがやるところなのかというところを確認させていただきたい。</p>	<p>実際に、そのデータセンターの中が、どこからがGLPで、どこからがテナントになるのかというのも、これはまちまちなところもあり、テナントと今後協議をする中で決まっていく。今回8棟あるが、8棟が全て同じ形になるかどうか、現時点では微妙なところもある。</p> <p>例えば、建物、それから、その建物を動かしていくための最低限の設備というところまでの外側は確実にデータセンターを造る我々が造っていく。その後、実際データホールの中にサーバーを入れていき、サーバー室を成り立たせるための空調が出てくるが、その空調は、テナントが持つ場合も、我々が用意する場合もあり、テナントによって考え方がありそうなところである。</p> <p>サーバーそのものについては、基本的には我々ではなくて、テナントのほうで入れるかと思う。</p> <p>大きな会社が入ることが確実になった場合は、今の中で1.1も十分目指していける数字にはなっていくとは思いますが、事業形態からいくと、そこまで踏み込んで記載というのは難しいので、1.4という数字で統一させていただいている。</p>	8/22 部会にて回答
		<p>確認だが、データセンター全体の消費電力というのを考えたときに、空調とか照明等に関しても、テナント側が準備するというケースになる場合もあるということか。</p>	<p>形態としてはあり得るが、今の全体のエネルギー量という意味では、1.4で計算をした場合の数字になっているので、それを超えることは基本的にないと考えている。</p>	
		<p>PUE自体を下げるためには、外側が効率的だと下がっていくので、箱物というか、空調やLEDを使うとかそういうところで下がっていくので、そこはできれば、テナント次第ではなくて、全体としてGLPの側で整えていただいたほうがいいのかと思う。1.4と書いているけれども、事業者でコントロールできるところというのは、まちまちになるという理解でよろしいか。</p>	<p>コントロールできる部分については、建物によって変わってくるので、まちまちになる可能性はあるが、それが1.4よりも、はるかに性能が悪いというような形にはならないように、コントロールをしていく形になる。</p> <p>仮に、建物自体の空調は事業者だが、サーバーを冷やすための空調というのはテナントに行くという可能性はあるが、今回の書いている数字を著しく逸脱するような省エネ性能を持つということはないと考えている。</p>	

項目	番号	指摘 質問事項等	事業者の説明等	取扱い
温室効果ガス	6	<p>PUEだけで見ていると、実はIT機器のほうの効率性は担保されない。IT機器の運用が非効率だとPUEは下がっていくということにもなりかねないので、IT機器側とテナント全体の、要はPUEではなくて、やはり消費電力を見せていただくというのが非常に重要だなと考えており、それを事後調査のところでお示しいただくことは可能か。</p>	<p>その部分というのが、そもそもテナントとして公表できるものなのかは、貸しデータセンターであったり、貸し施設であったりするので、そこは事業上できないという可能性はあり得るかなと思うので、どこまできちんと提示できるか、今即答ができない。</p>	8/22 部会にて回答
		<p>テナントの消費電力でないところは事後調査で示していただけるという理解でよろしいか。</p>	<p>そこは可能だと思う。</p>	
その他 (環境全般)	1	<p>日が当たらないということもあるが、光の害、24時間、今までなかった夜の部分の動きがあるので、光を発するとかそういうところに対しての何か対策を取るのか。</p>	<p>光害について、データセンター、物流施設そのものは、例えば商業施設やマンションというような窓が多く整備されるものではないので、夜間に光が漏れ出すことは基本的には少ない施設と考えている。</p> <p>散策路についても、特に照明等に関しては、不要な光を出すようなものを整備していくつもりはないので、しっかり対応していきたい。</p> <p>また、光を出すことによって、それが害となるような、昆虫類や哺乳類、生物のほうに対しても一定の配慮がなされるような照明機器の選定をしっかり考えていきたい。</p>	7/25 部会にて回答
その他 (環境全般)	2	<p>都民意見が多数、多岐にわたるジャンルで出ている。この回答について、同じ内容のもので仕方ない部分もあると思うが、一部回答には表記の揺れやずれがあり、住民の皆さんにとっては不安感などにつながっていきかねない問題だと思う。</p> <p>できる限り意見についてははっきりお答えになるのがよろしいかと思う。</p>	<p>回答については、同じような内容のものもありながら、答えるタイミングが違ったり、表記ゆれがあったということについて、大変申し訳ございません。</p> <p>大きな内容、考え方はずれることなく回答しているつもりではあるが、表現等については、今後の機会においても気をつけてやっていきたいと思う。</p>	8/22 部会にて回答

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">その他（環境全般）</p>	<p style="text-align: center;">3</p>	<p>見解書の 89 ページで昭島市長からの意見だが、基本的事項の意見の 3 番で、「資料編を含む環境影響評価書案に内容の不整合と誤りが散見される」という意見がある。</p> <p>これについて、具体的にどのような内容が把握されているか。もし把握されているようであればこの場で説明いただきたい。</p>	<p>こちらの御意見に関しては、大変お恥ずかしい話だと認識している。文字の変換ミスや、単位の書き間違いが散見されているという御指摘を、市民の皆さんからもいただいており、評価書の段階でしっかり対応していきたい。数多くあったので、一個一個はこの場では割愛させていただく。</p> <p>大きな点として捉えているのは、工事用車両に関して、大体どれくらいの台数が周辺を走るのかを計算上積み上げて、発生、集中の交通量、道路交通関係等の計算をしているが、そもそもの発生集中について、工事中に関しては、敷地内だけで走行するものも含めて、それも全て外を走るというような、少し過剰に走行する予測条件としているところがあったので、改めていきたい。これはこちらのほうの確認と、昭島市から数字の不整合として御指摘いただいていた。過剰に見ていたもので、計算すると同じ値、もしくは下がる方向になるかと認識しているが、まだ具体的な数字がお示しできなく申し訳ない。</p> <p>また、生物・生態系について、非公開版 8.6-57 ページで、行動圏の解析結果として図面をお示ししているが、こちらのメッシュの間隔、スケールがちょっと小さく、適切なメッシュの切り方ではなかったというのが確認できている。</p> <p>多摩川までの距離の表現、評価書案の中では 2 km 前後と表記をしていたが、「実際もっとあるでしょう」というような御指摘を市民の皆さんからいただいていた。</p> <p>メッシュの切り方に関しては改め、予測結果の表現としても、ちょっと距離が延びるような形になろうかと思う。ただ、飛翔の図を入れているが、猛禽類が飛んでいる、青い線でくるくと書いている、飛翔の形態については間違いはなく、メッシュの切り方として、色の塗り方、塗りつぶしの形が若干変わってくるかと思う。</p> <p style="text-align: center;">（次ページへ）</p>	<p>8/22 部会にて回答</p>
--	--------------------------------------	---	---	------------------------

項目	番号	指摘、質問事項等	事業者の説明等	取扱い
その他 (環境全般)	3 (続き)		<p>(続き)</p> <p>こちらについても、評価書で改めていくべき大きな点と捉えているので、しっかり整理し直していきたい。</p> <p>こちらで認識している大きな点というのは、上記の2点である。あとは表現上の間違いや、コメントと図表との不整合があったり、それだけに限らないところであると思うが、いろいろ御指摘いただいているところでもあるので、しっかり再度評価書の時点で見直して、修正をしていきたいと思う。</p>	
		<p>評価書の中で確実な対応をお願いしたい。</p>	<p>しっかりと対応していきたい。</p>	
	4	<p>例えば、オオタカのところでは、8.6-134ページの10行目、書きぶりが「注目される種である上位性のオオタカは、大部分が消失する。」で終わり、主語と述語が何を言いたいのか分からない。</p> <p>ネガティブチェックだけが目立って、環境保全措置として何を配慮して、それで「こういうことをやります」というような評価をちゃんと書いていただかないと、評価書案といえないということになるので、全体を通してだが、ネガティブにチェックするだけではなく、環境影響は少ないということではなくて、事業者としてその環境を新たにどう創出していくのかという視点、それがちょっと図書から読み取れないことが多い。</p> <p>評価書をつくられるときにそのスタンスを明確に打ち出していないと、住民にはあまり理解されない、評価されない図書になってしまう可能性があるかと危惧している。</p>	<p>助言を踏まえてしっかり対応していきたい。</p>	8/22 部会にて回答

項目	番号	指摘 質問事項等	事業者の説明等	取扱い
その他 (環境全般)	5	<p>評価書案の 6-18 ページの施工の計画というのが重要になってくるかと思う。この順番で本当に今議論になっているところが補強できるのかというのも、少しお考えになってみてもいいのかなと思う。代官山緑地との関係を、もう一回絵にしながら皆さんでチェックいただいたほうがいいのかなと思う。(コメント)</p>		
	6	<p>今回非常に意見をたくさんいただいて、特に皆様の御関心がある交通と緑なのかと拝見していた。アセスメントの手続が、環境上の負荷をできるだけ減らす事業にしていくというところだが、プロセスを通じて関係者の皆様方とのコンセンサスというか、コミュニケーションを取っていくのも非常に重要なところである。</p> <p>近隣の方々、都民の方々からの意見を踏まえて何か見直すような点はあるのか。</p> <p>いろいろと緑のこととかも考えていると思うが、「この点を踏まえてこういうふうにした」というのがあると、もう少し理解も得やすくなるのかと思う。</p> <p>特に北側が非常に自然豊かなところで、高木も残すという話で、イメージのところを見ると移植もして高い木が2列になったりするようにも見えるが、景観の写真をみるとそこが分かりにくい。</p> <p>熱の心配、排熱の環境や騒音の心配などもあるので、敷地境界をずっと緑で囲むと、大分圧迫感等も減るのではないかと思う。</p> <p>今回、景観のイメージ図なども落葉樹であるため、木で覆われている感じが全然しないので、より具体的に、緑がどうなるということを示したほうがいいと思う。</p>	<p>調査計画書から評価書案に至る間では、やはり緑の環境と交通の話という2つの大きな御意見をたくさんいただいている中で、まず大きく変えてきた内容として配棟計画がある。</p> <p>もともとは物流施設を6棟、データセンターを9棟の計画で、公園の配置も今のように固めるものではなくて、ばらばらに配置するというのが当初の計画だったが、例えば緑のことを考えたときに、代官山緑地とのつながりについては大きく御意見があり、公園を集約し、玉川上水と代官山緑地の間部分に公園を持ってくるというふうに配棟計画を変更している。</p> <p>そのために、データセンターは9棟から8棟に集約し、建物一つ一つの容量などを工夫して9棟分を8棟に振り分けることによってあの部分の空間を確保した。</p> <p>物流も6棟を3棟にしたのは、いろいろ小さいものを1つに集約をして、その部分の配棟計画をあけて、玉川上水沿いの歩行者空間等、そういったところは確保してきた。そこについては、近隣や行政とも話をする中で変更してきたことが明確なところかと思う。</p> <p>緑については、アセス上はどうしても葉が落ちた段階での表現になっている。難しいところではあるが、敷地境界の部分については、極力今の樹木は残していくよう、具体的に計画をしていく。</p>	8/22 部会にて回答

項目	番号	指摘 質問事項等	事業者の説明等	取扱い
その他 (事業計画)	1	駐車場の設置について、この駐車場は、物流センターで使う車が使用するものだと思うが、例えばEVを使うということで施設を整備するのかを伺いたい。	<p>駐車場について、電気自動車がかかるのかどうかだが、物流施設、それから、データセンターも一部含むが、中に入るテナントで運用していく車という形になるので、全てが電気自動車になるかどうかは、現時点では私どもから言うことができない。</p> <p>一方で、電気自動車の数が増えていく状況なので、施設側として、電気自動車の充電ができるような設備を設けて、そういったことにきちんと対応できるようにしていきたいと考えている。</p>	7/25 部会にて回答
		駐車場に関しては、使用する車が全てEVだったとしても対応できるようなインフラを、とりあえずは整えるという理解でよいか。	<p>全てEVが来たときに対応できるか否かという点については、必ずそこで充電をするようなレベル感での電気容量等は、現時点では見込んでいない状況である。</p> <p>一方で、需要が高まってくることがあれば、当然それに合わせて検討していく形になるかと思っている。</p>	
	2	工場もつくるという話になっていたと思うが、もう、入る施設が決まっているという理解でよいか。	いわゆる工場ではなく、物流施設の中で一部組立や加工が発生した場合に工場という取扱いになる可能性があるので、「工場」という表記をしている。現在、具体的にどこかが決まっていることはない。	7/25 部会にて回答
	3	既に入居するテナントは、ほぼ目途がついているような状況なのか。それとも、そこはまだ全然オープンなのか。	中に入るテナントについては、現時点では全て未定である。	7/25 部会にて回答
		<p>GLPという事業者として、テナントへのガバナンスはどれくらい徹底できるのかという観点で、今回の開発にとっては非常にアセスと絡めて重要かと思う。</p> <p>「周知徹底、働きかけ」という言葉があるが、それを「確実な実施を目指す」という脈絡で出てくるところが多い。テナントはお客さんのような立場ではないかと推測するが、どれほどガバナンスの効果があるのかという点が知りたい。</p> <p>それに当たっては、条件をつけてのテナント募集なども選択としてはできるのかということも気になる点である。</p>	<p>中に入るテナントは、事実としてお客様という形になるが、完全にお客様優位で、施設側が全ていいなりではなくて、テナントを含めて、適切な施設運営管理は実施していく。</p> <p>具体的には、施設ごとになるが、テナント企業の代表、私ども管理の人間で、施設の運営をする会議を常々やっており、例えば、トラックの外部でどういったところが危ないといった情報交換など、適切に運用しながら、きちんとテナントへのガバナンスを効かせた上で運営していく形にしている。</p> <p>それはこの施設に限らず、既存の施設でも同様である。</p>	

項目	番号	指摘 質問事項等	事業者の説明等	取扱い
その他 (事業計画)	4	<p>施設内に進入経路の図があるが、入り口のところには車両をプールするような設備はないが、それによって例えば周辺道路に進入前の車が停まってしまうことはないのかという点が気になり、先ほどの駐車スペースの問題も含めて、何か計画の中で考えがあれば聞かせてもらいたい。</p> <p>その点で、道路を事業者が設置できるわけではないというのは理解しているので、自治体や警察との連携等を取れるのかもお教えいただきたい。</p>	<p>進入経路について、トラック待機場を物流施設のほうは各施設の中に設けている。</p> <p>物流施設の周りの道路でトラックが停まってしまうのが課題になるので、トラック待機場をいかに適切につくるかについては、全国で今170棟ほど運営をしているので、そこできちんと計画をしている。</p> <p>具体的には、施設ごとのトラックのピーク台数を想定しており、大体トラックの平均滞在時間は2時間になるので、入ってくるピークのトラックの2倍以上の待機場と荷下ろしバースを計画している。</p> <p>今回の施設では、3倍程度は設け、外にトラックが停まることのないような形で運営していき、仮にトラックが外に停まることがあれば、そういったことがないように、テナントにも会議の場を通じて伝えて、適切に運営していく形になる。</p>	7/25 部会にて回答
		<p>トラックの待機所を、これまでの実績からしっかり整備していくことは分かったが、入り口のところの、この施設に入るまでというところの懸念が払拭されていないので、そのあたりの点をもう少しだけ伺いたい。</p> <p>また、視察へ行ったが道路が非常に狭いということで、事業者で対応できないということがあるかと思うが、警察署や自治体との連携というのはこれから取っていくのか、それとも、連絡、相談しているのかということも、聞かせていただきたい。</p>	<p>道路の計画、周りの道路について、警察や地元の道路管理者については、当然相談をした上で、今、計画を進めている。交通量が増えることによって、周りの交差点がどういう形になるのかについては、事前に交通量調査をした上で、警視庁を含め相談しながら進めてきている。</p> <p>施設の外の道路の部分は、私どもが触れるところではないということでは理解をいただきたい。</p> <p>施設側としてできる工夫としては、例えばバースを予約するシステムをつくっており、着く時間を早めに決めておくことで、ドライバーは、手前のサービスエリア等で休憩等も取ってから来することもできる。逆に、入った後、中でずっと待たせることができないような形で運用することができ、それが結果、周りの道路に対して良い影響を与える。そういった周辺道路に対する対策は、現状既に取り組み始めている。</p>	7/25 部会にて回答
		<p>物理的にという問題ではなくて、別のシステム上で少し工夫も可能ということで、承知した。</p>		

項目	番号	指摘、質問事項等	事業者の説明等	取扱い
その他 (事業計画)	4 (続き)	システムで改善可能という答えについて、担保できるものなのか。「できる」という答えを、改善等の不安解消ということで求められていると思うので、お答えの仕方等も配慮されたらいいかと思うが、その辺についてもどのようにお考えか。	直接アセスには関わらない部分はあるかもしれないが、敷地外、公道について、直接我々がどうこうできるところは非常に少ないが、昭島市からも幾つか要望を受けており、どういう協力ができるか、引き続き協議をしていく。 はっきりと言える内容が現時点ではないが、引き続き地元の行政を含めてコミュニケーションを取っていくところが現時点での答えになるかと思う。	8/22 部会にて回答
	5	データセンターについてはDXの時代で需要があるのだろうと思う。入居テナントが決まっていないうことなので、データセンターに関してはお客さんがすぐ入るのではないかと見込むが、物流倉庫に関して、現地も見た中で、中央道や圏央道までのアクセスが10kmも離れていると、そういうロケーションの中で、果たして3棟つくるほどお客さんが入るのか。3棟必要なのか、その見込みを教えてください。	現時点ではテナントは決まっていないが、需要の予測という意味では、3棟埋まる容量が必要になってくるだろうと思っている。 全国的に、特に関東、関西が多いが、物流施設が非常にたくさんつくられている状況である。昨今だと、冷凍冷蔵の機能を持った物流施設などもできており、コロナ禍ではECが発展をして、携帯等で物を買うことで物量や物流施設が増えていったが、物の動きというのはかなり多くなってきている。また、古い物流倉庫が今だんだん新しくなってくるという大きな転換も来ているので、需要としては3棟分は十分に埋まると考えている。	7/25 部会にて回答
		現地を見て、周りに何施設か物流倉庫があったので、心配をしたが、有効的に使われるのであれば結構である。		

「GLP昭島プロジェクト」に係る都民の意見を聴く会における公述意見の概要

都民の意見を聴く会	公 述 人
	24 名

1 環境一般

- (1) 大気汚染や騒音・振動、交通渋滞による生活麻痺、100%地下水である水道水や地質・地盤への影響、地球温暖化ガスやデータセンターからの高熱排気による地域のヒートアイランド化の加速、地域の生きものや生態系の破壊や消失等々、取り返しの付かない環境悪化を招く事態に対して、都市計画中心の独断的な判断や環境影響評価項目毎の判断ではなく、環境総体として、生活・健康被害を受ける人間や動植物の立場に立った総合的な評価・判断を行ってほしいと切望する。
- (2) 「計画的効率的運行」と「渋滞の事前回避」は、両立しないのではないかと。走行ルート外の細街路や、入出庫ルートを外れた関連車両の走行が予測される。大気汚染・騒音・振動調査を追加して欲しい。
- (3) 見解書では、「熱収支は環境影響評価の項目ではない」、「CFD解析行った結果、夏日での計画地内及び周辺の地上部での気温の変化は、小さいと予測している」、「残存緑地及び新設緑地を整備し、20.6%、約12.12haの緑地の適切な維持管理で地上部の気温上昇を抑制に努める。」等と楽観的記述が並び、ヒートアイランド対策・排熱・対策は皆無。この対策は必要不可欠・喫緊の課題である。
- (4) 高さ40m～55mの物流倉庫3棟、これに加え、高さ約35mの巨大データセンター8棟が建設されることになっており、当該エリアにおける従来からの景観が大きく損なわれる。また、これだけの高層建築群が集中的に立ち並ぶことになれば、このエリア周辺における日照・日影の状況、風の向きや流れなども変化し、市民的な生活空間の悪化が避けられない。
- (5) 巨大な物流倉庫3棟の建設により、この工事期間中を含め、新たな物流交通の増加に伴う各種の自動車公害（交通渋滞、交通事故、騒音・振動、排ガスによる大気汚染、等々）の諸問題が確実に深刻化する。評価書案では、一日当たり5,800台にもものぼる

大型車を含む物流交通が追加的に発生すると予測されているが、このエリアと周辺における脆弱なアクセス道路の実情に照らしていえば、きわめて深刻な渋滞が日常的に発生するのは必至である。

- (6) 大変な数の車が増えるが、そのための対策はなく、昭島市のみでなく周囲の市町村にも被害を押し付けるだけである。すでに振動・騒音が環境基準を上回っていたり、基準ぎりぎりであることを分かった上で、それら道路にさらに大きく振動・騒音を上積みし、その対策は入居企業に計画運行やアイドリングストップなどを働きかけるとなっている。テナントに働きかけるだけでアイドリングストップなど誰がチェックするのか。道路はさらに激しく渋滞し、排気ガスがたまって、喘息や光化学スモッグ被害などの病気が増えるなど、多くの被害が想定される。
- (7) GLP 昭島の事業計画では、これまでに無かった交通渋滞の悪化、騒音、空気汚染が毎日、半永久的に続くことになる。交通事故に巻き込む危険、喘息などの持病を悪化させる危険を確実に増やす。また、緊急車両の通行が妨げられ、速やかな人命救助を困難にし、事故、犯罪、火災、災害への迅速な対応をも困難にする。GLP 昭島の施設は、余りにも大きく、異様な姿で、緑豊かで穏やかだった昭島の情景を無残な景色に一変させる。雨水は広大な屋根を介して流れ、浸透経路が大幅に変わるが、これに起因する地下水、飲み水の汚染などに対する具体的な評価は無く、悪影響を危惧する。
- (8) 大型車の増加で交通事故や騒音・振動・健康が一層心配である。環境負荷調査をお願いしたが納得できる様な回答はなかった。生活環境を一変させるだけに大型トラックの大幅な縮小、11,600 台/日の総量縮小、見直しがどうしても必要である。交通渋滞やまちづくり、自然・安全・生活環境他、問題が多すぎる。「11,600 台は企業の採算が合わないので減らせない」と言うが子どもやお年寄り、人の命はお金で変えない。
- (9) 景観及び交通に関するシミュレーションを行った結果、事業者が建設する物流施設やデータセンターは、景観上強い圧迫感を与えるものであり、交通についても、さらなる渋滞を引き起こすことが予測され、交通に起因する各種環境要因を悪化させるであろうことがわかった。事業者がこれまでに公表している環境保全措置はこのような著しい環境負荷を軽減できるようなものではない。
- (10) ヒートアイランドに関して質問しても、データセンターの屋上から熱が上に昇っていくので何ら問題がない、技術指針にはヒートアイランドという評価項目が載っていないから評価記載は不要という回答である。評価書案ではヒートアイランドの状況に関しては何も記載がない。「熱収支」として事業者の見解には「計画地内及び周辺

の地上部での気温の変化は小さいと予測しています」とあるが、具体的温度データが示されておらず不安はつのるばかりである。事業者の説明会資料では近年では低く感じられる 30°Cの温度で、しかも玉川上水沿いの気温とそこから離れた一般土地の温度差もほとんど読み取れないようなアナログデータを明示するなど、何を意図しているのか。夏日最大温度で安全目に検討する方針が必要ではないか。

- (11) GLP が計画しているデータセンターが稼働すれば、CO₂ 排出量は昭島市全体の約 4 倍、電力消費量は約 6 倍と予測されることを GLP が公表している。これでは、昭島市の地域全体がヒートアイランド化し、昭島市民、国民の命と健康を脅かすことになる。なぜ昭島市でなければならないのか。市民は納得していない。
- (12) ヒートアイランドを引き起こす巨大な電力消費が昭島の数ヘクタールで行われる。これが環境問題の最重要課題となっている。樹木の伐採本数について、明らかにするよう求めてきたが、答えない。3 千本以上とみられる代官山以外の皆伐という方針を全く変えていない。老齢化したので植え替えるのが最適手段だと開き直っているが、成長した樹木全体の炭素吸収量と移植する若い小木全体の炭素吸収量はどちらが多いか、データを示してから言ってもらいたい。気候変動危機に対する企業責任を自覚しない、今日の企業としてとしての資格を失っていると考える。

2 大気汚染

- (1) 大気汚染調査でつつじが丘通りをはじめ各交差点の渋滞の滞留時間の長さによる大気汚染の影響調査と評価を求める。GLP の調査では、車両の走行に伴う大気汚染物質調査としているが、渋滞の影響は無視できないと思う。
- (2) 大気汚染調査の予測・評価についての数値が住民の健康、ぜんそく患者等健康弱者に及ぼす影響について明らかにしていただきたい。

つつじが丘通りの二酸化窒素濃度は、現在より 1.05 倍増加するが、環境基準以下とのことである。私たちが知りたいのは、この数値が住民の健康にどのような影響があるのかである。そうした疑問、不安に対する回答・見解はない。1.05 倍の数値が将来にわたり住民の健康、ぜんそく患者に及ぼす影響について専門的見解を明らかにしていただきたい。

- (3) 道路そばを通学する子どもたちは、トラックなどのディーゼル車の配管直近の空気を吸うことになる。GLP による交通量の増加によって、さらに暴露自体は劇的に増えることになる。一般化してしまえば問題のない環境項目であっても、市民の生活のシーンを具体的に見ていくと、大変にリスクの高い状況に暴露されていることは往々

にしてある。ましてやそれが弱い立場の子供たちほど、リスクの高い状況になることを保護者としては看過できない。喘息や健康悪化がとても心配である。

- (4) 小学校がある昭島駅南側の大気汚染や騒音振動の環境影響予測、評価地点があまりに少ない状況である。発達段階にある子供たちの健康を守ることは大人たちが果たすべき役割ではないか。そのためにも大前提として、特に学校近くでも調査箇所の充実と予測、評価を求める。

3 騒音・振動

- (1) 現況調査においてもすでに環境基準を上回る騒音で道路沿いの住民は悩まされている。環境基準を 2dB も 3dB も上回ることが住民の健康・生活環境へどのような影響を及ぼすかの見解、評価が欠落している。特に夜間・深夜・早朝の騒音に及ぼす影響、睡眠を妨げられる住民の健康や生活への影響を専門的見地から明らかにして欲しい。
- (2) 見解書には、「エコドライブの徹底や啓発、ZEV 車の増加に対応できる施設計画の実施」とされているが、その対策で騒音が環境基準以下にできるのか、根拠を求める。実効性ある対策として、まず、22 時～6 時までの間の深夜・早朝の走行停止、禁止、物流倉庫も 24 時間営業をやめて 22 時～6 時の関連車両の入出庫を停止することである。また、影響を最小化していくための措置は、一日 5,800 台の交通量の大幅な縮小しかない。
- (3) 団地の住人は交通問題への大きな不安も持っている。夜間は特に騒音、振動、光の害が予想され、夜のトラック走行はやめて欲しい。
- (4) 緑街道は国道 16 号線に通じる為、特に早朝はすいていることもあってトラックの数が大変多い。奥多摩街道から北へ上がってきたトラックは途中から昭和通りへと入り、坂になっているため、勢いをつけた車はそのまま緑街道へと入ってくる。その騒音は著しく眠ることも出来ない。窓を開けておいたらテレビなど聞こえない。騒音にとどまらず、街道に面する小学校の子供達や公園の幼児たちの遊びにも影響する。子供たちの事故が多発するであろうと危惧する。

4 土壌汚染

- (1) 過去の農薬、肥料は、雨水の浸透とともに、土壌、地下水に多大に影響するため、水循環、廃棄物の項目での環境影響評価に関連するはずである。そのためには、土壌汚染の処理を「別途実施」ではなく、この環境影響評価の手続きにおいて、汚染の規模についてボーリング等を含めた現地調査の上で、予測・評価すべきである。評価書

案、見解書の基本的な欠陥として指摘するとともに、許容することはできない。関連項目ともに、環境影響評価を求める。

5 生物・生態系

- (1) 代官山緑地が唯一保全されるが、その周辺は開発され、とりわけ、その北側に新設される 16m 幅の東西道路は、代官山の動植物の局所的な絶滅を招きかねない。オオタカは繁殖スポットを放棄することは間違いなく、アナグマも中央公園が開放されれば、わざわざアニマルパスを利用する必要がなくなり、16m 道路でのロードキルの増大が明らかである。代官山が周辺地域とのつながりが断ち切られれば、野鳥の渡りのコースも阻害されることになる。そのため、少なくともハナミズキ通りから西側の東西道路は建設するべきではない。オオタカの行動圏となっている代官山の西側一帯に面して、最も高い 55m もの物流倉庫を建設するなど、もってのほかである。
- (2) 玉川上水の豊かな植生は、すぐそばに建つ 8 棟ものデータセンターや物流倉庫の日影や風環境の遮蔽によって、また、ゲンジボタルは、24 時間稼働する施設や大型輸送車の照明による光害で、衰退・消滅することが懸念される。
- (3) 開かれた緑という言葉がよく使われているが、ゴルフ場のごく一部を残した公園がそんなに価値があるものか。広大なゴルフ場の緑地は一般の人が入れないことでたくさんの動物や鳥や昆虫を育てている。アナグマやオオタカも閉ざされた緑だからこそ生きてのびてくれた。千本単位の木を切って巨大な建物の群れに変えてしまうのがこのプロジェクトである。
- (4) 季節の渡り鳥が楽しめるのも、つつじが丘団地が、ゴルフ場を介して玉川上水と繋がっている、いわゆる緑の連続性が保たれているからだと思っている。ゴルフ場が、物流倉庫とデータセンターに変わってしまうと、この緑の連続性が途切れてしまい、団地に来る野鳥相も寂しいものになってしまうのではないかと、危惧している。
- (5) アセス審議会で、「オオタカが工事で一旦いなくなっても、本当に帰ってくるのか」、という問いに GLP 社は、「昭和記念公園西側で行われた開発、また、代官山の東側で、福祉施設の工事が行われてもオオタカは戻ってきた。」と述べた。代官山の東側での福祉施設の工事は、規模の全く異なる小規模な開発で比較にならない。また、昭和記念公園西側のケースは、開発により森の面積は以前より狭くなったが、営巣エリアの横には巨大な昭和記念公園があり、餌場として充分機能すると思う。今回の計画では、代官山の森は、新設の 16m 幅の道路と、物流倉庫、データセンターによって完全に孤立化してしまう。開発中止が最も望ましいが、それが出来ないのなら、中央公園は、

オオタカの狩場が少しでも確保されるような、人が入れないバードサンクチュアリーにすること、そして16m道路は森や餌場の面積を減らさないよう代官山緑地の北側は建設中止を切望する。

- (6) 私たちがゴルフ場の緑を大事に思うのは、その眺め、空の広さ、そこを歩いていく風、鳥の声などを通じて、ゴルフ場の緑の豊かさを私たちが受け取っているからである。つまり、私たちにとって緑は開かれていて、私たち共有の財産となっている。敷地に入れる、入れない、ということをもって、「閉じられた緑から開かれた緑へ」と単純に言ってほしくない。私たちが今、受け取っている緑の豊かさ、それが失われることの重大さや悲しみを、GLP社は全く理解していないのではないかと感じる。
- (7) 代官山に住む鳥たち動物たちは昭島だけではなく日本の宝だと思う。だから代官山はなんとしても残されなければならない。だけどその脇を大型トラックが頻繁に往来していたなら、鳥たちがいることができるのだろうか、と思う。自然を守るのではなく、自然を壊すのであるならば、SDGsなどの時代に逆行することだと思う。そういうことを考えてもらいたい。

6 生物・生態系、自然との触れ合い活動の場共通

- (1) 中央公園は、より緑地の質と量を確保し、潜在自然植生や下層植生、数少ないアカマツの平地林やコナラ・ミズナラ等の高木層をいかした、代官山の延長となるような生物多様性豊かな緑地の拡大を目指してほしい。あわせて、人間と自然との触れ合いの場を確保するためにも、むやみやたらな人間の利用や侵入は、最小限に控えるべきである。人の活動の制限やゾーニングが実現してこそはじめて、代官山、中央公園、玉川上水の緑の連続性のある真のネットワークや生物多様性が実質担保される。この地の生態系の独自性や希少性が生かされるような触れ合いの場が創造されることを強く望む。
- (2) アンダーパスで北側公園に動物たちが移動できるということは、逆に犬などの侵入を容易に許すことになり、代官山緑地の生態系を破壊することになる。アンダーパスを実施するなら、北側の公園の「人と自然との触れ合い」を見直し、人や動物が侵入できないというエリアの制限が必要である。

7 日影

- (1) 巨大建造物が建つと、建物周辺の日影問題が深刻だと知った。住む場所を決める時に日当たりは重要視するのが一般的である。洗濯物問題は主婦にとって毎日の事だか

らストレスである。また冬には暖房費がさらにかかり、家計にも負担が増えるだろう。人間だけではなく玉川上水沿いの生物の環境が変わり、植物も育たなくなり、生態系にも影響が大きくなることが明らかである。法には違反していないと説明しているが、事業者側には、こうした住民の立場にたつ、想像力が欠如している。せめて建物の高さを低くして、奥に引っ込めて建設して欲しい。

8 風環境

- (1) 風環境調査において、ビル風がすごくならないかと心配する声も多数ある。それに対して、CFD解析結果が出され、著しい変化は生じないといっても、建設前後で、大きく値が違う場所がある。樹木の新植・移植計画もなく、住民からのセットバック要求にこたえることなく、風環境の変化が軽減されるなどと言えるのか。加えて、「今回のCFD解析では、防風対策等の対策はしないこととした」という大変残念な記述が評価書案にあり、地域住民の認識や危機感とは大きなずれのあることを痛感した。風の温度や方向の変化に関する調査を求める。

9 景観

- (1) GLPが市民説明会で示した説明図は市民の印象操作を狙ったデザインであり、市民の中には大きな圧迫感を感じないとの印象を持った方が多くいた。
- (2) つつじが丘ハイツから見たモンタージュ写真を加えるべきである。住民の意見に真摯に応えるのではなく、できない理由をこじつけ、うやむやのままことを運ぼうという姿勢は改めるべき。また、美堀町住民の多くの方々から指摘されている、「計画地北側南西方向を眺望した山脈の変化が記載されていない」ということにもしっかり答えるべきである。
- (3) つつじが丘ハイツ管理組合、つつじが丘北自治会で、威圧感・圧迫感の軽減と緑地帯のさらなる確保のため、L-1の建物の位置をもっと北へ移動すること、倉庫の高さを下げることを事業者要望している。しかし事業者は、近接する住宅に対しては、十分に隔離を取った配置をし、圧迫感の軽減について配慮した配棟計画としているとし、樹木の新植・移植計画もなく、樹高の高い樹木を現位置保存する、移植負荷の高い樹種の移植などで周囲からの圧迫感の軽減は図れているなどとして、住民要求に対して背を向けたままである。圧迫感の減少を図るため、計画建築物の外壁の位置を、敷地境界からさらにセットバックすることが必要である。
- (4) つつじが丘小学校からの景観シミュレーションでは、校舎の北側からは、現在ゴル

フ場外縁部に植栽された高木が主要な景観要素だが、供用後、外縁部の高木は残される形となるようだが、それよりも非常にボリュームの大きい物流施設のコンクリート壁が、景観要素の大方を占める。

- (5) 上水沿いの計画建築物の北側に、計画地内の既存樹木を移植して「現況と同様に樹木を主体とした景観が構成されるため、大きな変化はないと予測」とあるが、これは、記述者の結論ありきの主観的・恣意的暴論である。また、美堀橋の南側から東を臨んだ時、高さ 35m の DC-7 が玉川上水の樹々のはるか上に聳えるため、景観が激変する。
- (6) 玉川上水景観基本軸に定められた基本理念を曲げて、眺望点の解釈とスカイラインの解釈を独自の視点から変更している。「樹木に隠れるため、眺望景観の変化はほとんどないと予測する」と評価しているが、そのような木の近くに立って、木で視野を奪うような位置で、評価するものなのか。全く勝手な評価方法を住民に押し付け、快適な生活を奪おうとしている。
- (7) 防球ネットは開発計画地の周辺に何か所かあり、ゴルフ場運営当時のまま残っている。見解書でこの防球ネット（ポール）を超えないから「眺望を大きく変化させるものではないと考えています。」というのはこじつけではないか。防球ネット（ポール）が背景を見えなくしているものとはなっていない。
- (8) 住民が慣れ親しんだ身近な大変良好な景観があるため、事業者は更に周辺住民から景観に関して直接の情報収集をして評価したものを評価書に追加して仕上げてもらいたい。

10 温室効果ガス

- (1) データセンターの電力消費量や温室効果ガス排出量等に関しては、データを見る限り、昭島市や東京都は、いくら環境推進都市を標榜し、環境施策上、2030 年や 2050 年までの温暖化防止策を目指そうとしても、この GLP 1 社による開発だけで、その施策が大幅に後退し、環境政策の破綻を招くことは明らかである。
- (2) GLP 昭島のデータセンターが排出する温室効果ガスは、179 万トンで全国一多く、CO₂ 排出量は、昭島市の 4 倍、消費電力は 6 倍、高知県全県分にも匹敵するとのことである。2050 年 CO₂ 排出ゼロを表明している東京都や昭島市にも大きな影響を与える。
- (3) 事業者の提案する現行の対策では、まるきり不十分である。環境について考慮し努力するというなら、せめて温暖化対策のマイナスを減らすよう、全ての樹木は伐採せずに移植、そのために移植先を確保、さらに植樹し現行より樹木を増やして CO₂ 削減に努める、ゲートを作って EV 車以外は入れないなどの具体的な対策を考えられるか

と思っていたので、非常に呆れた。企業はこのレベルの根本的な対策を必要経費として事業計画をすべき。それが成り立たないなら、そのような事業は実行すべきではない。

- (4) 気候危機対策、温暖化ガス削減対策について、GLPは何の対策も持っていない。昭島市長の求める「再生可能のエネルギー100%」の電力について検討もしていない。そのような企業が気候危機の時代に生き残れるか。昭島市で立地することは認められない。

11 その他（事業計画等）

- (1) 既に建っている倉庫の稼働率や、CO₂の排出率や、大気汚染の可能性、今後の人口推移、また玉川上水などの史跡への影響リスクを踏まえてまで、新たな倉庫がここ昭島に必要なのか。異常気象の引き金や自然破壊の側面もあり、なおかつ、計画地のすぐそばで、約37万人もの人々が生活をしている、そのような土地で、先住の人々の健康や権利を奪ってまで、この事業計画を展開させるべきなのか。物流倉庫やデータセンター由来の事故や健康被害が起こったときには、被害に対してきちんと保障はなされるのか。不安は尽きない。
- (2) この計画は、増える大型車の台数・CO₂の排出量・排熱量がけた違いに多く、人口11万人余りのコンパクトな市で受け止めきれものではない。トラックに限らず関係車両や渋滞に押し出された車が団地内に立ち寄りたり通り抜けたりすることも心配である。
- (3) 既存の道路網が決して余裕のある設計とは言えない市街地に、車両の通行が大前提となる物流施設を建設することが果たして妥当なのか、そういったところから考えなければいけない問題だと感じている。
- (4) 今回の開発計画は、住民の生活、地域の環境を犠牲にした利潤を第一にしたものであり、事業者がどのように言葉を飾っても、「地域との共生」と言えるのか。どこにその「共生」があるのか、明確に住民に伝えてもらいたい。
- (5) 環境アセスメントで、特に大切なのは環境や社会への影響に配慮したかどうかを伝える、意味のある応答を行うことである、影響の回避、低減、そのためには計画そのものを修正することが求められる、とされている。この観点にたつて、聴く会で出されている意見等に対して、事業者が誠実な回答を行うよう、求めたい。
- (6) 思い出深いホテルが壊され、結婚式、成人式、家族のお祝いなどのかけがえのない思い出の場所が無くなってしまうのは本当に悲しい。市民の思い出を壊すことが地域

貢献などと名付けられるのは腹立たしいかぎりである。

- (7) 災害時はどのような送電計画を想定されているのか、大電力の必要な施設なので当然の大きなリスクも抱え、すべてを明らかにするのは義務だと思う。災害停電時は、GLP 昭島は事業者用の専用送電なのでそちら側が優先され、住民が割を食うことにならないのか。災害時に GLP 昭島が優先され都民生活全体が不利益を被らないように、都民が不安感を持たない綿密な計画を立てて早急に提示してもらいたい。
- (8) 太陽光パネルを倉庫の屋上に敷き詰める仕様をしているために火災のリスクも格段に上がる。一度火災が起これば有害物質が発生、それを含んだ煙が周辺の町まで流れ続けるだろう。せっかく残した代官山樹林地にも悪影響はあるだろうし、万一戻ってきた生き物も煙に巻かれて死んでしまうかもしれない。意見書にて防止策をたずねたが、明確な回答はなかった。既に大阪・舞洲で大規模な火災を起こしている事業者なのだから、再発防止策を開示してもらえないことは残念だ。
- (9) GLP が示した評価書案について昭島市民、都民 438 人が案の見解について怒り、不安を表明したにも関わらず昭島市民、都民の怒り・不安に応えることもなく事業計画を押しすすめている。こんな事業を昭島市で施工させてはならないと思う。
- (10) GLP も、市民の理解を得るために努力するべきである。説明会では大型車の台数さえ 1 台たりとも減らさない姿勢を崩さなかった。計画を縮小したり、使用するエネルギーを再生可能エネルギー100%にするなど最先端の環境保護策を示せば市民もともに計画を考えるだろう。住民、行政、事業者の三者が対話をしながら環境保全対策を考える、真の意味での SDGs の実践を提案する。
- (11) 委託業者を矢面にして、住民対応を進めていることは、社会的な責任をもち、住民に多大な影響を与える事業者の住民対応として、最悪のやり方である。住民の反発をかうことは当たり前である。今すぐに、改めるよう求める。
- (12) 専門的に十分検討の上、住民に判りやすいように配慮した影響評価を求める。その上で、地域との共生を標榜する事業者として、規定に従っただけの説明会ではなく 5~6 回でも、住民との協議の機会を開催することを求める。
- (13) 公述人として発言されている方の疑問や不安に対して、子どもたちでもわかる言葉で説明をして欲しい。専門用語、カタカナ英語、英語での表現を入れられては、聞く人みんなが分かったと理解はできない。住民は専門家ではない。もう一度、説明内容を改めて再度提出してもらいたい。都民の意見書として、438 件の意見書があった。これだけの数の意見があるということは、今までの GLP 社の説明が都民に理解できる

ような内容ではなかったのだと思う。

- (14) 影響を受けるはずの近隣の市で説明会を開かないのはおかしいと思う。立川市民はほとんどこの計画の事を知らない。昭島市でも、一部の地域にしか説明会の知らせをしていないそうである。さらには、説明会実施の2週間前に発表。これでは都合をつけ出席できる住民は少なく、多くの住民の理解を得ようとしていない、事業者の姿勢に誠意を感じられない。
- (15) 見解書の見解には、「審議会委員による専門的立場からの審査を踏まえ」との表現が252か所も記載され、専門家の意見が無ければ改善しないという見解は、審査委員に責任を転嫁するばかりか、自らの改善意思を放棄し、専門家に責任を押し付け、ひいてはこの委員会の責任者である都知事までも責任を転嫁しており、指摘できるなら指摘して下さいというこの傲慢な態度が、評価書案・見解書の内容に表れ、それが問題だらけなのではないか。
- (16) 事業者の住民への対応は、当初から、はぐらかしや先送りで、具体的な回答を避け、根拠の薄い説明も多く、形式的で表面的な対応を繰り返すばかりで、不誠実な対応姿勢の是正を強く求めても一向に変わらず、住民は全く納得ができない。このような態度からは、当然、大変な不安と恐怖、不信感と危機感しか感じられず、その気持ちは非常に強まるばかりである。
- (17) 我々のシミュレーションの活動は、環境影響評価プロセスにおけるコミュニケーションとして、市民からのアプローチを行ったものだと考える。事業者はまずそれを受け入れ、これら市民の要望に対しどのような対応ができるのか、真摯に考え、通り一遍ではない何らかの建設的な回答をしていただきたいと考えている。これこそが環境影響評価の理念に基づくコミュニケーションではないか。
- (18) これまで私が出席した説明会やこの見解書は、一貫してまさに形式的であり、話し合いはない。説明会を「今後も予定してまいりたい」と言われても、それが形式的なものではない話し合いの場として実施されるとはとても思えない。この施設が環境や私たちの生活に、どんな問題を引き起こすかわからない。もし何か起きたときに、私たちにはそのことを言うていく先があるのか。結局、一番の不安はそこだと思う。つまり、この施設を建てようとしている人たちは、条例が求めるような、環境保全への配慮、住民の意見を誠実に聴くことを行う意思があるのか、と疑問に思う。

12 その他（交通等）

- (1) 発生交通量が最大5,800台、往復11,600台の根拠が妥当なのか、判断できない。

いま段階では、架空のものであり、信用に値する数値とは考えられない。早急に、交通量に関する質疑のための住民・事業者・昭島市三者による協議の場を創るよう積極的な対応を求める。

- (2) 出入口周辺道路は、片側1車線、しかも日常的に渋滞している交通インフラが不十分であることは明らかである。しかし見解書には、昭島市の交通渋滞長調査の結果や、住民の交通事故増加を心配する意見などを客観的に分析し、住民の利便性や、交通事故増加のリスクを真摯に対応する姿勢が見えない。事業者・企業の利便性だけを押し付けるのではなく、住民の健康・利便性とも両立する計画に見直しを求める。
- (3) 自転車通学の子供達の事故は増加中で、GLPが走行する市内の道は、片側1車線で自転車道路となっても、とても狭くてトラックが横に来ると大変危険である。事故が起こらないわけがない。
- (4) ドライバーが日頃から注意を払っていても、世の中から交通事故をゼロにすることはできない。そのため、特に小中学校周辺では保護者や地域の皆さんが警察や教育委員会などとも協力しながら登下校中の事故のないよう、様々な努力が積み重ねてきた末に、子供たちの通学路における安全が保たれている。通学となる道路に11,600台ものトラックを発生させる物流センターを設置しようとする企業の経営判断に至るプロセスの中に、通学路を登下校する小中学生、その安全を守ろうとする人たちの努力に積み重ねがどの程度考慮されていたのかと思う。
- (5) 諏訪松中通りは、普段から渋滞、一般車・大型車が走行ルートの渋滞避けて光華小学校への通学路に入る。信号機のない横断歩道、沿道には高齢者の都営住宅、幼児公園もあり子どもたちの交通事故や危険が増大。走行時間の規制・走行ルートの変更が必要である。
- (6) GLP社は事故や渋滞等からどの様にしてわたし達を守ってくれるのか。経路設定、テナントとの情報共有、運転者への指導だけでなんとかなると思っているか。車両分散しても全体が増えれば、どこかで渋滞が起き、事故の可能性も出る。やってみなければわからないという判断で計画をするのはやめてもらいたい。あいまいな回答では納得できない。
- (7) 交通危険箇所について、検討してもらうこととなり、光華小学校の保護者にアンケートを取って結果を伝えたが、回答は車両ルート遵守の徹底など、個別具体策ではなく一般的な内容に終始し、落胆した。地域からの懸念の声に誠意を持って答え、住民の安全安心にも配慮した上での事業であるべき。

- (8) 大型トラックが増えることで、道路が傷んだ場合の補正はだれが行うのか。事業者側で修繕を行うべきだと思う。
- (9) 救急車・緊急車両走行における調査と影響評価を求める。市道北 146 号は、土日の午後 3 時以降は、上下線とも大渋滞が発生し、救急車が逆走しながら抜け出していくのが日常化している。また、データセンターの CO₂ 排出によるヒートアイランドの発生で熱中症患者の救急搬送の拡充・救急車・病院の救急体制の拡充の検討を求める必要があるといわれている。